

1 岡山市指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例 (通所リハビリテーション関係部分)

(凡例)

従うべき基準・・・灰色のマーカー

標準・・・・・・・・囲み文字

参酌すべき基準・・・記号なし

省令	岡山市条例
<p>指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準</p> <p style="text-align: right;"><u>(平成十一年三月三十一日)</u> <u>(厚生省令第三十七号)</u></p> <p>第一章 総則</p> <p>(趣旨)</p> <p>第一条 <u>基準該当居宅サービスの事業に係る介護保険法（平成九年法律第二百二十三号。以下「法」という。）第四十二条第二項の厚生労働省令で定める基準及び指定居宅サービスの事業に係る法第七十四条第三項の厚生労働省令で定める基準は、次の各号に掲げる基準に応じ、それぞれ当該各号に定める規定による基準とする。</u></p> <p><u>一～九 （略）</u></p> <p>(定義)</p> <p>第二条 この<u>省令</u>において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。</p> <p>一 居宅サービス事業者 法第八条第一項に規定する居宅サービス事業を行う者</p>	<p><u>岡山市</u>指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準 <u>等を定める条例</u></p> <p style="text-align: right;"><u>平成24年12月19日</u> <u>岡山市条例第85号</u></p> <p>第1章 総則</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 <u>この条例は、介護保険法（平成9年法律第123号。以下「法」という。）第42条第1項第2号並びに第74条第1項及び第2項の規定に基づき、指定居宅サービス及び基準該当居宅サービスの事業の人員、設備及び運営の基準を定めるとともに、法第70条第2項第1号の規定に基づき、指定居宅サービス事業者の指定に必要な申請者の要件を定めるものとする。</u></p> <p>(定義)</p> <p>第2条 この<u>条例</u>において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。</p> <p>(1) 居宅サービス事業者 法第8条第1項に規定する居宅サービス事業を行う者</p>

<p>をいう。</p> <p>二 指定居宅サービス事業者又は指定居宅サービス それぞれ法第四十一条第一項に規定する指定居宅サービス事業者又は指定居宅サービスをいう。</p> <p>三 利用料 法第四十一条第一項に規定する居宅介護サービス費の支給の対象となる費用に係る対価をいう。</p> <p>四 居宅介護サービス費用基準額 法第四十一条第四項第一号又は第二号に規定する厚生労働大臣が定める基準により算定した費用の額（その額が現に当該指定居宅サービスに要した費用の額を超えるときは、当該現に指定居宅サービスに要した費用の額とする。）をいう。</p> <p>五 法定代理受領サービス 法第四十一条第六項の規定により居宅介護サービス費が利用者に代わり当該指定居宅サービス事業者を支払われる場合の当該居宅介護サービス費に係る指定居宅サービスをいう。</p> <p>六 基準該当居宅サービス 法第四十二条第一項第二号に規定する基準該当居宅サービスをいう。</p> <p>七 常勤換算方法 当該事業所の従業者の勤務延時間数を当該事業所において常勤の従業者が勤務すべき時間数で除することにより、当該事業所の従業者の員数を常勤の従業者の員数に換算する方法をいう。</p> <p>(指定居宅サービスの事業の一般原則)</p>	<p>をいう。</p> <p>(2) 指定居宅サービス事業者又は指定居宅サービス それぞれ法第41条第1項に規定する指定居宅サービス事業者又は指定居宅サービスをいう。</p> <p>(3) 利用料 法第41条第1項に規定する居宅介護サービス費の支給の対象となる費用に係る対価をいう。</p> <p>(4) 居宅介護サービス費用基準額 法第41条第4項第1号又は第2号に規定する厚生労働大臣が定める基準により算定した費用の額（その額が現に当該指定居宅サービスに要した費用の額を超えるときは、当該現に指定居宅サービスに要した費用の額とする。）をいう。</p> <p>(5) 法定代理受領サービス 法第41条第6項の規定により居宅介護サービス費が利用者に代わり当該指定居宅サービス事業者を支払われる場合の当該居宅介護サービス費に係る指定居宅サービスをいう。</p> <p>(6) 基準該当居宅サービス 法第42条第1項第2号に規定する基準該当居宅サービスをいう。</p> <p>(7) 常勤換算方法 当該事業所の従業者の勤務延時間数を当該事業所において常勤の従業者が勤務すべき時間数で除することにより、当該事業所の従業者の員数を常勤の従業者の員数に換算する方法をいう。</p> <p><u>(8) 基準省令 指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準(平成11年厚生省令第37号) をいう。</u></p> <p>(指定居宅サービスの事業の一般原則)</p> <p><u>第3条 法第70条第2項第1号の条例で定める者は、法人とする。ただし、病院</u></p>
--	---

<p><u>第三条</u> 指定居宅サービス事業者は、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めなければならない。</p> <p><u>2</u> 指定居宅サービス事業者は、指定居宅サービスの事業を運営するに当たっては、地域との結び付きを重視し、市町村<u>（特別区を含む。以下同じ。）</u>、<u>他の</u>居宅サービス事業者その他の保健医療サービス及び福祉サービスを提供する者との連携に努めなければならない。</p>	<p><u>（医療法（昭和23年法律第205号）第1条の5第1項の病院をいう。以下同じ。）</u>、<u>診療所（同条第2項の診療所をいう。以下同じ。）</u>若しくは薬局（薬事法（昭和35年法律第145号）第2条第11項の薬局をいう。以下同じ。）により行われる居宅療養管理指導又は病院若しくは診療所により行われる訪問看護、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション若しくは短期入所療養介護に係る指定の申請にあつては、この限りでない。</p> <p><u>2</u> 前項に定める者の役員（業務を執行する社員、取締役、執行役又はこれらに準ずる者をいい、相談役、顧問その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、事業を行う者に対し業務を執行する社員、取締役、執行役又はこれらに準ずる者と同等以上の支配力を有するものと認められる者を含む。）及び当該申請に係る事業所を管理する者は、岡山市暴力団排除基本条例（平成24年市条例第3号）<u>第2条第2号に規定する暴力団員であつてはならない。</u></p> <p><u>3</u> 指定居宅サービス事業者は、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めなければならない。</p> <p><u>4</u> 指定居宅サービス事業者は、<u>利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、責任者を設置する等必要な体制の整備を行うとともに、その従業者に対し、研修を実施する等の措置を講ずるよう努めなければならない。</u></p> <p><u>5</u> 指定居宅サービス事業者は、指定居宅サービスの事業を運営するに当たっては、地域との結び付きを重視し、市町村、<u>地域包括支援センター（法第115条の4第1項に規定する地域包括支援センターをいう。以下同じ。）</u>、居宅サービス事業者その他の保健医療サービス及び福祉サービスを提供する者との連携に努め</p>
---	--

<p>第二章～第七章 （略）</p> <p>第八章 通所リハビリテーション</p> <p>第一節 基本方針</p> <p>（基本方針）</p> <p><b>第百十条</b> 指定居宅サービスに該当する通所リハビリテーション（以下「指定通所リハビリテーション」という。）の事業は、要介護状態となった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、理学療法、作業療法その他必要なりハビリテーションを行うことにより、利用者の心身の機能の維持回復を図るものでなければならない。</p> <p>第二節 人員に関する基準</p> <p>（従業者の員数）</p> <p><b>第百十一条</b> 指定通所リハビリテーションの事業を行う者（以下「指定通所リハビリテーション事業者」という。）が、当該事業を行う事業所（以下「指定通所リハビリテーション事業所」という。）ごとに置くべき指定通所リハビリテーションの提供に当たる従業者（以下「通所リハビリテーション従業者」という。）の員数は、次のとおりとする。</p> <p>一 医師 指定通所リハビリテーションの提供に当たらせるために必要な一以上</p>	<p>なければならない。</p> <p><u>6 指定居宅サービス事業者は、地域包括支援センターから求めがあった場合には、地域ケア会議に参加するよう努めなければならない。</u></p> <p>第二章～第七章 （略）</p> <p>第八章 通所リハビリテーション</p> <p>第1節 基本方針</p> <p>（基本方針）</p> <p><b>第138条</b> 指定居宅サービスに該当する通所リハビリテーション（以下「指定通所リハビリテーション」という。）の事業は、要介護状態となった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、理学療法、作業療法その他必要なりハビリテーションを行うことにより、利用者の心身の機能の維持回復を図るものでなければならない。</p> <p>第2節 人員に関する基準</p> <p>（従業者の員数）</p> <p><b>第139条</b> 指定通所リハビリテーションの事業を行う者（以下「指定通所リハビリテーション事業者」という。）が、当該事業を行う事業所（以下「指定通所リハビリテーション事業所」という。）ごとに置くべき指定通所リハビリテーションの提供に当たる従業者（以下「通所リハビリテーション従業者」という。）の員数は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 医師 指定通所リハビリテーションの提供に当たらせるために必要な1以上</p>
---	--

の数

二 理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護師若しくは准看護師（以下この章において「看護職員」という。）若しくは介護職員 次に掲げる基準を満たすために必要と認められる数

イ 指定通所リハビリテーションの単位ごとに、利用者（当該指定通所リハビリテーション事業者が指定介護予防通所リハビリテーション事業者（指定介護予防サービス等基準**第百十七条**第一項に規定する指定介護予防通所リハビリテーション事業者をいう。以下同じ。）の指定を併せて受け、かつ、指定通所リハビリテーションの事業と指定介護予防通所リハビリテーション（指定介護予防サービス等基準**第百十六条**に規定する指定介護予防通所リハビリテーションをいう。以下同じ。）の事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合にあつては、当該事業所における指定通所リハビリテーション又は指定介護予防通所リハビリテーションの利用者。以下この節及び次節において同じ。）の数が十人以下の場合、その提供を行う時間帯（以下この条において「**提供時間**」という。）を通じて専ら当該指定通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員の数が一以上確保されていること、又は、利用者の数が十人を超える場合は、**提供時間**を通じて専ら当該指定通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が、利用者の数を十で除した数以上確保されていること。

の数

(2) 理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護師若しくは准看護師（以下この章において「看護職員」という。）若しくは介護職員 次に掲げる基準を満たすために必要と認められる数

ア 指定通所リハビリテーションの単位ごとに、利用者（当該指定通所リハビリテーション事業者が指定介護予防通所リハビリテーション事業者（指定介護予防サービス等基準**条例第120条**第1項に規定する指定介護予防通所リハビリテーション事業者をいう。以下同じ。）の指定を併せて受け、かつ、指定通所リハビリテーションの事業と指定介護予防通所リハビリテーション（指定介護予防サービス等基準**条例第119条**に規定する指定介護予防通所リハビリテーションをいう。以下同じ。）の事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合にあつては、当該事業所における指定通所リハビリテーション又は指定介護予防通所リハビリテーションの利用者。以下この節及び次節において同じ。）の数が10人以下の場合、その提供を行う時間帯（以下この条において「**提供時間帯**」という。）を通じて専ら当該指定通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員の数が1以上確保されていること、又は、利用者の数が10人を超える場合は、**提供時間帯**を通じて専ら当該指定通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が、利用者の数を10で除して**得た**数以上確保されていること。

<p>ロ イに掲げる人員のうち専らリハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士が、利用者が百又はその端数を増すごとに一年以上確保されていること。</p> <p>2 指定通所リハビリテーション事業所が診療所である場合は、前項第二号の規定にかかわらず、次のとおりとすることができる。</p> <p>一 指定通所リハビリテーションの単位ごとに、利用者の数が十人以下の場合は、提供時間帯を通じて専ら当該指定通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が一以上確保されていること、又は、利用者の数が十人を超える場合は、<u>提供時間</u>を通じて専ら当該指定通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が、利用者の数を十で除した数以上確保されていること。</p> <p>二 前号に掲げる人員のうち専ら当該指定通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は通所リハビリテーション若しくはこれに類するサービスに一年以上従事した経験を有する看護師が、常勤換算方法で、〇・一以上確保されること。</p> <p>3 第一項第一号の医師は、常勤でなければならない。</p> <p>4 指定通所リハビリテーション事業者が指定介護予防通所リハビリテーション事業者の指定を併せて受け、かつ、指定通所リハビリテーションの事業と指定介護予防通所リハビリテーションの事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合については、指定介護予防サービス等基準<u>第百十七条</u>第一項から第三</p>	<p>イ アに掲げる人員のうち専らリハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士が、利用者が100又はその端数を増すごとに1以上確保されていること。</p> <p>2 指定通所リハビリテーション事業所が診療所である場合は、前項第2号の規定にかかわらず、次のとおりとすることができる。</p> <p>(1) 指定通所リハビリテーションの単位ごとに、利用者の数が10人以下の場合は、提供時間帯を通じて専ら当該指定通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が1以上確保されていること、又は、利用者の数が10人を超える場合は、<u>提供時間帯</u>を通じて専ら当該指定通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が、利用者の数を10で除し<u>て得た</u>数以上確保されていること。</p> <p>(2) 前号に掲げる人員のうち専ら当該指定通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は通所リハビリテーション若しくはこれに類するサービスに1年以上従事した経験を有する看護師が、常勤換算方法で、0.1以上確保されること。</p> <p>3 第1項第1号の医師は、常勤でなければならない。</p> <p>4 指定通所リハビリテーション事業者が指定介護予防通所リハビリテーション事業者の指定を併せて受け、かつ、指定通所リハビリテーションの事業と指定介護予防通所リハビリテーションの事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合については、指定介護予防サービス等基準<u>条例第120条</u>第1項から</p>
---	---



項までに規定する人員に関する基準を満たすことをもって、前三項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

### 第三節 設備に関する基準

(設備に関する基準)

**第百十二条** 指定通所リハビリテーション事業所は、指定通所リハビリテーションを行うにふさわしい専用の部屋等であって、三平方メートルに利用定員（当該指定通所リハビリテーション事業所において同時に指定通所リハビリテーションの提供を受けることができる利用者の数の上限をいう。以下この節及び次節において同じ。）を乗じた面積以上のものを有しなければならない。ただし、当該指定通所リハビリテーション事業所が介護老人保健施設である場合にあっては、当該専用の部屋等の面積に利用者用に確保されている食堂（リハビリテーションに供用されるものに限る。）の面積を加えるものとする。

2 指定通所リハビリテーション事業所は、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備並びに指定通所リハビリテーションを行うために必要な専用の機械及び器具を備えなければならない。

第3項までに規定する人員に関する基準を満たすことをもって、前3項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

### 第3節 設備に関する基準

(設備に関する基準)

**第140条** 指定通所リハビリテーション事業所は、指定通所リハビリテーションを行うにふさわしい専用の部屋等、便所及び洗面設備を有するほか、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備並びに指定通所リハビリテーションを行うために必要な専用の機械及び器具を備えなければならない。

2 前項に掲げる設備の基準は、次のとおりとする。

(1) 専用の部屋等 3平方メートルに利用定員（当該指定通所リハビリテーション事業所において同時に指定通所リハビリテーションの提供を受けることができる利用者の数の上限をいう。以下この節及び次節において同じ。）を乗じて得た面積以上とすること。ただし、当該指定通所リハビリテーション事業所が介護老人保健施設である場合にあっては、当該専用の部屋等の面積に利用者用に確保されている食堂（リハビリテーションに供用されるものに限る。）の面積を加えるものとする。

(2) 便所 要介護者が使用するのに適したものとする。

3 指定通所リハビリテーション事業者が指定介護予防通所リハビリテーション事業者の指定を併せて受け、かつ、指定通所リハビリテーションの事業と指定介護予防通所リハビリテーションの事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合については、指定介護予防サービス等基準**第百十八条**第一項及び第二項に規定する設備に関する基準を満たすことをもって、前二項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

#### 第四節 運営に関する基準

(内容及び手続の説明及び同意) ☆準用

第八条 指定通所リハビリテーション事業者は、指定通所リハビリテーションの提供の開始に際し、あらかじめ、利用申込者又はその家族に対し、第百十七条に規定する**運営規程**の概要、通所リハビリテーション従業者の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を記した文書を交付して説明を行い、当該提供の開始について利用申込者の同意を得なければならない。

2 指定通所リハビリテーション事業者は、利用申込者又はその家族からの申出があった場合には、前項の規定による文書の交付に代えて、第五項で定めるところにより、当該利用申込者又はその家族の承諾を得て、当該文書に記すべき重要事項を電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であって次に掲げるもの（以下この条において「電磁的方法」という。）により提供することができる。この場合において、当該指定通所リハビリテーション事業者は、当該文書を交付したものとみなす。

3 指定通所リハビリテーション事業者が指定介護予防通所リハビリテーション事業者の指定を併せて受け、かつ、指定通所リハビリテーションの事業と指定介護予防通所リハビリテーションの事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合については、指定介護予防サービス等基準**条例第121条**第1項及び第2項に規定する設備に関する基準を満たすことをもって、前2項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

#### 第4節 運営に関する基準

(内容及び手続の説明及び同意) ☆準用

第8条 指定通所リハビリテーション事業者は、指定通所リハビリテーションの提供の開始に際し、あらかじめ、利用申込者又はその家族に対し、第145条に規定する**重要事項に関する規程**の概要、通所リハビリテーション従業者の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を記した文書を交付して説明を行い、当該提供の開始について利用申込者の同意を得なければならない。

2 指定通所リハビリテーション事業者は、利用申込者又はその家族からの申出があった場合には、前項の規定による文書の交付に代えて、第5項で定めるところにより、当該利用申込者又はその家族の承諾を得て、当該文書に記すべき重要事項を電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であって次に掲げるもの（以下この条において「電磁的方法」という。）により提供することができる。この場合において、当該指定通所リハビリテーション事業者は、当該文書を交付したものとみなす。



<p>一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの</p> <p>イ <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機と利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法</p> <p>ロ <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された前項に規定する重要事項を電気通信回線を通じて利用申込者又はその家族の閲覧に供し、当該利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該重要事項を記録する方法（電磁的方法による提供を受ける旨の承諾又は受けない旨の申出をする場合にあっては、<u>指定通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機に備えられたファイルにその旨を記録する方法）</p> <p>二 磁気ディスク、シー・ディー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物をもって調製するファイルに前項に規定する重要事項を記録したものを交付する方法</p> <p>3 前項に掲げる方法は、利用申込者又はその家族がファイルへの記録を出力することによる文書を作成することができるものでなければならない。</p> <p>4 第二項第一号の「電子情報処理組織」とは、<u>指定通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機と、利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。</p> <p>5 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、第二項の規定により第一項に規定する</p>	<p>(1) 電子情報処理組織を使用する方法のうちア又はイに掲げるもの</p> <p>ア <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機と利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法</p> <p>イ <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された前項に規定する重要事項を電気通信回線を通じて利用申込者又はその家族の閲覧に供し、当該利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該重要事項を記録する方法（電磁的方法による提供を受ける旨の承諾又は受けない旨の申出をする場合にあっては、<u>指定通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機に備えられたファイルにその旨を記録する方法）</p> <p>(2) 磁気ディスク、シー・ディー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物をもって調製するファイルに前項に規定する重要事項を記録したものを交付する方法</p> <p>3 前項に掲げる方法は、利用申込者又はその家族がファイルへの記録を出力することによる文書を作成することができるものでなければならない。</p> <p>4 第2項第1号の「電子情報処理組織」とは、<u>指定通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機と、利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。</p> <p>5 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、第2項の規定により第1項に規定する</p>
--	--

<p>重要事項を提供しようとするときは、あらかじめ、当該利用申込者又はその家族に対し、その用いる次に掲げる電磁的方法の種類及び内容を示し、文書又は電磁的方法による承諾を得なければならない。</p> <p>一 第二項各号に規定する方法のうち<u>指定通所リハビリテーション事業者</u>が使用するもの</p> <p>二 ファイルへの記録の方式</p> <p>6 前項の規定による承諾を得た<u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、当該利用申込者又はその家族から文書又は電磁的方法により電磁的方法による提供を受けない旨の申出があったときは、当該利用申込者又はその家族に対し、第一項に規定する重要事項の提供を電磁的方法によってしてはならない。ただし、当該利用申込者又はその家族が再び前項の規定による承諾をした場合は、この限りでない。</p> <p>(提供拒否の禁止) ☆準用</p> <p>第九条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、正当な理由なく<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供を拒んではならない。</p> <p>(サービス提供困難時の対応) ☆準用</p> <p>第十条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、当該<u>指定通所リハビリテーション事業所</u>の通常の事業の実施地域（当該事業所が通常時に当該サービスを提供する地域をいう。以下同じ。）等を勘案し、利用申込者に対し自ら適切な<u>指定通所リハビリテーション</u>を提供することが困難であると認めた場合は、当該利用申込者に係る<u>居宅介護支援事業者</u>への連絡、適当な他の<u>指定通所リハビリテーション事業者</u>等の紹介その他の必要な措置を速やかに講じなければならない。</p>	<p>重要事項を提供しようとするときは、あらかじめ、当該利用申込者又はその家族に対し、その用いる次に掲げる電磁的方法の種類及び内容を示し、文書又は電磁的方法による承諾を得なければならない。</p> <p>(1) 第二項各号に規定する方法のうち<u>指定通所リハビリテーション事業者</u>が使用するもの</p> <p>(2) ファイルへの記録の方式</p> <p>6 前項の規定による承諾を得た<u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、当該利用申込者又はその家族から文書又は電磁的方法により電磁的方法による提供を受けない旨の申出があったときは、当該利用申込者又はその家族に対し、第1項に規定する重要事項の提供を電磁的方法によってしてはならない。ただし、当該利用申込者又はその家族が再び前項の規定による承諾をした場合は、この限りでない。</p> <p>(提供拒否の禁止) ☆準用</p> <p>第9条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、正当な理由なく<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供を拒んではならない。</p> <p>(サービス提供困難時の対応) ☆準用</p> <p>第10条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、当該<u>指定通所リハビリテーション事業所</u>の通常の事業の実施地域（当該事業所が通常時に当該サービスを提供する地域をいう。以下同じ。）等を勘案し、利用申込者に対し自ら適切な<u>指定通所リハビリテーション</u>を提供することが困難であると認めた場合は、当該利用申込者に係る<u>居宅介護支援事業者（法第8条第23項に規定する居宅介護支援を行う者をいう。以下同じ。）</u>への連絡、適当な他の<u>指定通所リハビリテーション事業</u></p>
--	---

<p>(受給資格等の確認) ☆準用</p> <p>第十一条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供を求められた場合は、その者の提示する被保険者証によって、被保険者資格、要介護認定の有無及び要介護認定の有効期間を確かめるものとする。</p> <p>2 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、前項の被保険者証に、法第七十三条第二項に規定する認定審査会意見が記載されているときは、当該認定審査会意見に配慮して、<u>指定通所リハビリテーション</u>を提供するように努めなければならない。</p> <p>(要介護認定の申請に係る援助) ☆準用</p> <p>第十二条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供の開始に際し、要介護認定を受けていない利用申込者については、要介護認定の申請が既に行われているかどうかを確認し、申請が行われていない場合は、当該利用申込者の意思を踏まえて速やかに当該申請が行われるよう必要な援助を行わなければならない。</p> <p>2 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、居宅介護支援（これに相当するサービスを含む。）が利用者に対して行われていない等の場合であって必要と認めるときは、要介護認定の更新の申請が、遅くとも当該利用者が受けている要介護認定の有効期間が終了する三十日前にはなされるよう、必要な援助を行わなければならない。</p> <p>(心身の状況等の把握) ☆準用</p> <p>第十三条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション</u>の</p>	<p><u>者</u>等の紹介その他の必要な措置を速やかに講じなければならない。</p> <p>(受給資格等の確認) ☆準用</p> <p>第11条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供を求められた場合は、その者の提示する被保険者証によって、被保険者資格、要介護認定の有無及び要介護認定の有効期間を確かめるものとする。</p> <p>2 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、前項の被保険者証に、法第73条第2項に規定する認定審査会意見が記載されているときは、当該認定審査会意見に配慮して、<u>指定通所リハビリテーション</u>を提供するように努めなければならない。</p> <p>(要介護認定の申請に係る援助) ☆準用</p> <p>第12条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供の開始に際し、要介護認定を受けていない利用申込者については、要介護認定の申請が既に行われているかどうかを確認し、申請が行われていない場合は、当該利用申込者の意思を踏まえて速やかに当該申請が行われるよう必要な援助を行わなければならない。</p> <p>2 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、居宅介護支援（これに相当するサービスを含む。）が利用者に対して行われていない等の場合であって必要と認めるときは、要介護認定の更新の申請が、遅くとも当該利用者が受けている要介護認定の有効期間が終了する30日前にはなされるよう、必要な援助を行わなければならない。</p> <p>(心身の状況等の把握) ☆準用</p> <p>第13条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション</u>の</p>
---	---

<p>提供に当たっては、利用者に係る居宅介護支援事業者が開催するサービス担当者会議（指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準（平成十一年厚生省令第三十八号）第十三条第九号に規定するサービス担当者会議をいう。以下同じ。）等を通じて、利用者の<u>心身の状況、病歴</u>、その置かれている環境、他の保健医療サービス又は福祉サービスの利用状況等の把握に努めなければならない。</p> <p>（居宅介護支援事業者等との連携） ☆準用</p> <p><u>第六十四条</u> <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション</u>を提供するに当たっては、居宅介護支援事業者<u>その他</u>保健医療サービス<u>又は</u>福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。</p> <p>2 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供の終了に際しては、利用者又はその家族に対して適切な指導を行うとともに、主治の医師及び居宅介護支援事業者に対する情報の提供並びに保健医療サービス<u>又は</u>福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。</p> <p>（法定代理受領サービスの提供を受けるための援助） ☆準用</p> <p>第十五条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供の開始に際し、利用申込者が介護保険法施行規則（平成十一年厚生省令第三十六号。以下「施行規則」という。）第六十四条各号のいずれにも該当しないときは、当該利用申込者又はその家族に対し、居宅サービス計画の作成を居宅介護</p>	<p>提供に当たっては、利用者に係る居宅介護支援事業者が開催するサービス担当者会議（指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準（平成11年厚生省令第38号。<u>以下「指定居宅介護支援等基準」という。</u>）第13条第9号に規定するサービス担当者会議をいう。以下同じ。）等を通じて、利用者の<u>心身の状況、病歴</u>、その置かれている環境、他の保健医療サービス又は福祉サービスの利用状況等の把握に努めなければならない。</p> <p>（居宅介護支援事業者等との連携） ☆準用</p> <p><u>第70条</u> <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション</u>を提供するに当たっては、居宅介護支援事業者、<u>地域包括支援センター又は</u>保健医療サービス<u>若しくは</u>福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。</p> <p>2 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供の終了に際しては、利用者又はその家族に対して適切な指導を行うとともに、主治の医師及び居宅介護支援事業者に対する情報の提供並びに<u>地域包括支援センター又は</u>保健医療サービス<u>若しくは</u>福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。</p> <p>（法定代理受領サービスの提供を受けるための援助） ☆準用</p> <p>第15条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供の開始に際し、利用申込者が介護保険法施行規則（平成11年厚生省令第36号。以下「施行規則」という。）第64条各号のいずれにも該当しないときは、当該利用申込者又はその家族に対し、居宅サービス計画 <u>(同条第1号ハ及びニに</u></p>
---	--

<p>支援事業者に依頼する旨を市町村に対して届け出ること等により、<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>の提供を法定代理受領サービスとして受けることができる旨を説明すること、居宅介護支援事業者に関する情報を提供することその他の法定代理受領サービスを行うために必要な援助を行わなければならない。</p> <p>(居宅サービス計画に沿ったサービスの提供) ☆準用</p> <p>第十六条 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、居宅サービス計画 <a href="#">(施行規則第六十四条第一号ハ及びニに規定する計画を含む。以下同じ。)</a> が作成されている場合は、当該計画に沿った指定訪問介護を提供しなければならない。</p> <p>(居宅サービス計画等の変更の援助) ☆準用</p> <p>第十七条 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、利用者が居宅サービス計画の変更を希望する場合は、当該利用者に係る居宅介護支援事業者への連絡その他の必要な援助を行わなければならない。</p> <p>(サービスの提供の記録) ☆準用</p> <p>第十九条 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>を提供した際には、当該<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>の提供日及び内容、当該<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>について法第四十一条第六項の規定により利用者に代わって支払を受ける居宅介護サービス費の額その他必要な事項を、利用者の居宅サービス計画を記載した書面又はこれに準ずる書面に記載しなければならない。</p> <p>2 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>を提供した際には、提供した具体的なサービスの内容等を記録するとともに、利用者から</p>	<p><a href="#">規定する計画を含む。以下同じ。)</a> の作成を居宅介護支援事業者に依頼する旨を市町村に対して届け出ること等により、<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>の提供を法定代理受領サービスとして受けることができる旨を説明すること、居宅介護支援事業者に関する情報を提供することその他の法定代理受領サービスを行うために必要な援助を行わなければならない。</p> <p>(居宅サービス計画に沿ったサービスの提供) ☆準用</p> <p>第16条 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、居宅サービス計画が作成されている場合は、当該計画に沿った指定訪問介護を提供しなければならない。</p> <p>(居宅サービス計画等の変更の援助) ☆準用</p> <p>第17条 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、利用者が居宅サービス計画の変更を希望する場合は、当該利用者に係る居宅介護支援事業者への連絡その他の必要な援助を行わなければならない。</p> <p>(サービスの提供の記録) ☆準用</p> <p>第19条 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>を提供した際には、当該<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>の提供日及び内容、当該<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>について法第41条第6項の規定により利用者に代わって支払を受ける居宅介護サービス費の額その他必要な事項を、利用者の居宅サービス計画を記載した書面又はこれに準ずる書面に記載しなければならない。</p> <p>2 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>を提供した際には、提供した具体的なサービスの内容等を記録するとともに、利用者から</p>
--	--



<p>の申出があった場合には、文書の交付その他適切な方法により、その情報を利用者に対して提供しなければならない。</p> <p>(利用料等の受領) ☆準用</p> <p><b>第九十六条</b> <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、法定代理受領サービスに該当する<u>指定通所リハビリテーション</u>を提供した際には、その利用者から利用料の一部として、当該<u>指定通所リハビリテーション</u>に係る居宅介護サービス費用基準額から当該<u>指定通所リハビリテーション事業者</u>に支払われる居宅介護サービス費の額を控除して得た額の支払を受けるものとする。</p> <p>2 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、法定代理受領サービスに該当しない<u>指定通所リハビリテーション</u>を提供した際にその利用者から支払を受ける利用料の額と、<u>指定通所リハビリテーション</u>に係る居宅介護サービス費用基準額との間に、不合理な差額が生じないようにしなければならない。</p> <p>3 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、前二項の支払を受ける額のほか、<u>次の各号</u>に掲げる費用の額の支払を利用者から受けることができる。</p> <p>一 利用者の選定により通常の事業の実施地域以外の地域に居住する利用者に対して行う送迎に要する費用</p> <p>二 <u>指定通所リハビリテーション</u>に通常要する時間を超える<u>指定通所リハビリテーション</u>であって利用者の選定に係るものの提供に伴い必要となる費用の範囲内において、通常の<u>指定通所リハビリテーション</u>に係る居宅介護サービス費用基準額を超える費用</p> <p>三 食事の提供に要する費用</p>	<p>の申出があった場合には、文書の交付その他適切な方法により、その情報を利用者に対して提供しなければならない。</p> <p>(利用料等の受領) ☆準用</p> <p><b>第105条</b> <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、法定代理受領サービスに該当する<u>指定通所リハビリテーション</u>を提供した際には、その利用者から利用料の一部として、当該<u>指定通所リハビリテーション</u>に係る居宅介護サービス費用基準額から当該<u>指定通所リハビリテーション事業者</u>に支払われる居宅介護サービス費の額を控除して得た額の支払を受けるものとする。</p> <p>2 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、法定代理受領サービスに該当しない<u>指定通所リハビリテーション</u>を提供した際にその利用者から支払を受ける利用料の額と、<u>指定通所リハビリテーション</u>に係る居宅介護サービス費用基準額との間に、不合理な差額が生じないようにしなければならない。</p> <p>3 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、前2項の支払を受ける額のほか、次に掲げる費用の額の支払を利用者から受けることができる。</p> <p>(1) 利用者の選定により通常の事業の実施地域以外の地域に居住する利用者に対して行う送迎に要する費用</p> <p>(2) <u>指定通所リハビリテーション</u>に通常要する時間を超える<u>指定通所リハビリテーション</u>であって利用者の選定に係るものの提供に伴い必要となる費用の範囲内において、通常の<u>指定通所リハビリテーション</u>に係る居宅介護サービス費用基準額を超える費用</p> <p>(3) 食事の提供に要する費用</p>
---	---



<p>四 おむつ代</p> <p>五 前各号に掲げるもののほか、<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供において提供される便宜のうち、日常生活においても通常必要となるものに係る費用であって、その利用者に負担させることが適当と認められる費用</p> <p>4 前項第三号に掲げる費用については、<u>別に厚生労働大臣が定めるところ</u>によるものとする。</p> <p>5 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、第三項の費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、利用者又はその家族に対し、当該サービス内容及び費用について説明を行い、利用者の同意を得なければならない。</p> <p>(保険給付の請求のための証明書の交付) ☆準用</p> <p>第二十一条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、法定代理受領サービスに該当しない<u>指定通所リハビリテーション</u>に係る利用料の支払を受けた場合は、提供した<u>指定通所リハビリテーション</u>の内容、費用の額その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書を利用者に対して交付しなければならない。</p> <p>(指定通所リハビリテーションの基本取扱方針)</p> <p><u>第百十三条</u> 指定通所リハビリテーションは、利用者の要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、その目標を設定し、計画的に行われなければならない。</p> <p>2 指定通所リハビリテーション事業者は、<u>自ら</u>その提供する指定通所リハビリテーションの質の評価を行い、常にその改善を図らなければならない。</p>	<p>(4) おむつ代</p> <p>(5) 前各号に掲げるもののほか、<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供において提供される便宜のうち、日常生活においても通常必要となるものに係る費用であって、その利用者に負担させることが適当と認められる費用</p> <p>4 前項第3号に掲げる費用については、<u>基準省令第96条第4項に規定する平成17年厚生労働省告示第419号により厚生労働大臣が定めるところ</u>によるものとする。</p> <p>5 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、第3項の費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、利用者又はその家族に対し、当該サービス内容及び費用について説明を行い、利用者の同意を得なければならない。</p> <p>(保険給付の請求のための証明書の交付) ☆準用</p> <p>第21条 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、法定代理受領サービスに該当しない<u>指定通所リハビリテーション</u>に係る利用料の支払を受けた場合は、提供した<u>指定通所リハビリテーション</u>の内容、費用の額その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書を利用者に対して交付しなければならない。</p> <p>(指定通所リハビリテーションの基本取扱方針)</p> <p><u>第141条</u> 指定通所リハビリテーションは、利用者の要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、その目標を設定し、計画的に行われなければならない。</p> <p>2 指定通所リハビリテーション事業者は、<u>多様な評価の手法を用いて</u>その提供する指定通所リハビリテーションの質の評価を行い、常にその改善を図らなければならない。</p>
--	---

<p>(指定通所リハビリテーションの具体的取扱方針)</p> <p><u>第百十四条</u> 指定通所リハビリテーションの方針は、次に掲げるところによるものとする。</p> <p>一 指定通所リハビリテーションの提供に当たっては、医師の指示及び次条第一項に規定する通所リハビリテーション計画に基づき、利用者の心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立に資するよう、妥当適切に行う。</p> <p>二 通所リハビリテーション従業者は、指定通所リハビリテーションの提供に当たっては、懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者又はその家族に対し、リハビリテーションの観点から療養上必要とされる事項について、理解しやすいように指導又は説明を行う。</p> <p>三 指定通所リハビリテーションの提供に当たっては、常に利用者の病状、心身の状況及びその置かれている環境の的確な把握に努め、利用者に対し適切な<u>サービス</u>を提供する。特に、認知症である要介護者に対しては、必要に応じ、その特性に対応したサービス提供ができる体制を整える。</p>	<p>(指定通所リハビリテーションの具体的取扱方針)</p> <p><u>第142条</u> 指定通所リハビリテーションの方針は、次に掲げるところによるものとする。</p> <p>(1) 指定通所リハビリテーションの提供に当たっては、医師の指示及び次条第1項に規定する通所リハビリテーション計画に基づき、利用者の心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立に資するよう、妥当適切に行う<u>こと</u>。</p> <p>(2) 通所リハビリテーション従業者は、指定通所リハビリテーションの提供に当たっては、懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者又はその家族に対し、リハビリテーションの観点から療養上必要とされる事項について、理解しやすいように指導又は説明を行う<u>こと</u>。</p> <p>(3) 指定通所リハビリテーションの提供に当たっては、常に利用者の病状、心身の状況及びその置かれている環境の的確な把握に努め、利用者に対し適切な<u>理学療法、作業療法その他必要なリハビリテーション</u>を提供する<u>こと</u>。特に、認知症である要介護者に対しては、必要に応じ、その特性に対応したサービス提供ができる体制を整える<u>こと</u>。</p> <p><u>(4) 指定通所リハビリテーション事業者は、指定通所リハビリテーションの提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならないこと。</u></p> <p><u>(5) 指定通所リハビリテーション事業者は、身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならないこと。</u></p>
---	---

<p>(通所リハビリテーション計画の作成)</p> <p><u>第百十五条</u> 医師及び理学療法士，作業療法士その他専ら指定通所リハビリテーションの提供に当たる通所リハビリテーション従業者（以下「医師等の従業者」という。）は，診療又は運動機能検査，作業能力検査等を基に，共同して，利用者の心身の状況，希望及びその置かれている環境を踏まえて，リハビリテーションの目標，当該目標を達成するための具体的なサービスの内容等を記載した通所リハビリテーション計画を作成しなければならない。</p> <p>2 通所リハビリテーション計画は，既に居宅サービス計画が作成されている場合は，当該計画の内容に沿って作成しなければならない。</p> <p>3 医師等の従業者は，通所リハビリテーション計画の作成に当たっては，その内容について利用者又はその家族に対して説明し，利用者の同意を得なければならない。</p> <p>4 医師等の従業者は，通所リハビリテーション計画を作成した際には，当該通所リハビリテーション計画を利用者に交付しなければならない。</p> <p>5 通所リハビリテーション従業者は，それぞれの利用者について，通所リハビリテーション計画に従ったサービスの実施状況及びその評価を診療記録に記載<u>する。</u></p>	<p><u>2 指定通所リハビリテーション事業者は，必要に応じ，利用者の送迎が可能となるよう，体制の整備に努めるものとする。</u></p> <p><u>3 指定通所リハビリテーション事業者は，必要に応じ，利用者が成年後見制度を活用することができるように支援しなければならない。</u></p> <p>(通所リハビリテーション計画の作成)</p> <p><u>第143条</u> 医師及び理学療法士，作業療法士その他専ら指定通所リハビリテーションの提供に当たる通所リハビリテーション従業者（以下「医師等の従業者」という。）は，診療又は運動機能検査，作業能力検査等を基に，共同して，利用者の心身の状況，希望及びその置かれている環境を踏まえて，リハビリテーションの目標，当該目標を達成するための具体的なサービスの内容等を記載した通所リハビリテーション計画を作成しなければならない。</p> <p>2 通所リハビリテーション計画は，既に居宅サービス計画が作成されている場合<u>において</u>は，当該計画の内容に沿って作成しなければならない。</p> <p>3 医師等の従業者は，通所リハビリテーション計画の作成に当たっては，その内容について利用者又はその家族に対して説明し，利用者の同意を得なければならない。</p> <p>4 医師等の従業者は，通所リハビリテーション計画を作成した際には，当該通所リハビリテーション計画を利用者に交付しなければならない。</p> <p>5 通所リハビリテーション従業者は，それぞれの利用者について，通所リハビリテーション計画に従ったサービスの実施状況及びその評価を診療記録に記載<u>しなければならない。</u></p>
--	--

<p>(利用者に関する市町村への通知) ☆準用</p> <p><b>第二十六条</b> 指定通所リハビリテーション事業者は、指定通所リハビリテーションを受けている利用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、遅滞なく、意見を付してその旨を市町村に通知しなければならない。</p> <p>一 正当な理由なしに指定通所リハビリテーションの利用に関する指示に従わないことにより、要介護状態の程度を増進させたと認められるとき。</p> <p>二 偽りその他不正な行為によって保険給付を受け、又は受けようとしたとき。</p> <p>(緊急時等の対応) ☆準用</p> <p><b>第二十七条</b> 通所リハビリテーション従業者は、現に指定通所リハビリテーションの提供を行っているときに利用者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主治の医師への連絡を行う等の必要な措置を講じなければならない。</p> <p>(管理者等の責務)</p> <p><b>第百十六条</b> 指定通所リハビリテーション事業所の管理者は、医師、理学療法士、作業療法士又は専ら指定通所リハビリテーションの提供に当たる看護師のうちから選任した者に、必要な管理の代行をさせることができる。</p> <p>2 指定通所リハビリテーション事業所の管理者又は前項の管理を代行する者は、指定通所リハビリテーション事業所の従業者にこの節の規定を遵守させるための必要な指揮命令を行うものとする。</p> <p>(運営規程)</p> <p><b>第百十七条</b> 指定通所リハビリテーション事業者は、指定通所リハビリテーション事業所ごとに、次に掲げる事業の運営についての重要事項に関する規程 <u>(以下こ</u></p>	<p>(利用者に関する市町村への通知) ☆準用</p> <p><b>第27条</b> 指定通所リハビリテーション事業者は、指定通所リハビリテーションを受けている利用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、遅滞なく、意見を付してその旨を市町村に通知しなければならない。</p> <p>(1) 正当な理由なしに指定通所リハビリテーションの利用に関する指示に従わないことにより、要介護状態の程度を増進させたと認められるとき。</p> <p>(2) 偽りその他不正な行為によって保険給付を受け、又は受けようとしたとき。</p> <p>(緊急時等の対応) ☆準用</p> <p><b>第28条</b> 通所リハビリテーション従業者は、現に指定通所リハビリテーションの提供を行っているときに利用者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主治の医師への連絡を行う等の必要な措置を講じなければならない。</p> <p>(管理者等の責務)</p> <p><b>第144条</b> 指定通所リハビリテーション事業所の管理者は、医師、理学療法士、作業療法士又は専ら指定通所リハビリテーションの提供に当たる看護師のうちから選任した者に、必要な管理の代行をさせることができる。</p> <p>2 指定通所リハビリテーション事業所の管理者又は前項の管理を代行する者は、指定通所リハビリテーション事業所の従業者にこの節の規定を遵守させるための必要な指揮命令を行うものとする。</p> <p>(運営規程)</p> <p><b>第145条</b> 指定通所リハビリテーション事業者は、指定通所リハビリテーション事業所ごとに、次に掲げる事業の運営についての重要事項に関する規程を定めて</p>
--	--

<p><u>の章において「運営規程」という。）を定めておかなければならない。</u></p> <p>一 事業の目的及び運営の方針</p> <p>二 従業者の職種、員数及び職務の内容</p> <p>三 営業日及び営業時間</p> <p>四 指定通所リハビリテーションの利用定員</p> <p>五 指定通所リハビリテーションの内容及び利用料その他の費用の額</p> <p>六 通常の事業の実施地域</p> <p>七 サービス利用に当たっての留意事項</p> <p><u>八</u> 非常災害対策</p> <p><u>九</u> その他運営に関する重要事項 (勤務体制の確保等) ☆準用</p> <p><u>第百一条</u> <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、利用者に対し適切な<u>指定通所リハビリテーション</u>を提供できるよう、<u>指定通所リハビリテーション事業所</u>ごとに従業者の勤務の体制を定めておかなければならない。</p> <p>2 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション事業所</u>ごとに、当該<u>指定通所リハビリテーション事業所</u>の従業者によって<u>指定通所リハビ</u></p>	<p>おかなければならない。</p> <p>(1) 事業の目的及び運営の方針</p> <p>(2) 従業者の職種、員数及び職務の内容</p> <p>(3) 営業日及び営業時間</p> <p>(4) 指定通所リハビリテーションの利用定員</p> <p>(5) 指定通所リハビリテーションの内容及び利用料その他の費用の額</p> <p>(6) 通常の事業の実施地域</p> <p>(7) サービス利用に当たっての留意事項</p> <p><u>(8) 緊急時、事故発生時等における対応方法</u></p> <p><u>(9) 非常災害対策</u></p> <p><u>(10) 虐待の防止のための措置に関する事項</u></p> <p><u>(11) 成年後見制度の活用支援</u></p> <p><u>(12) 苦情解決体制の整備</u></p> <p><u>(13) その他運営に関する重要事項</u> (勤務体制の確保等) ☆準用</p> <p><u>第110条</u> <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、利用者に対し適切な<u>指定通所リハビリテーション</u>を提供できるよう、<u>指定通所リハビリテーション事業所</u>ごとに従業者の勤務の体制を定め、<u>その勤務の実績とともに記録し</u>ておかなければならない。</p> <p>2 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション事業所</u>ごとに、当該<u>指定通所リハビリテーション事業所</u>の従業者によって<u>指定通所リハビ</u></p>
--	--

<p><u>リテーション</u>を提供しなければならない。ただし、利用者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りでない。</p> <p>3 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>通所リハビリテーション従業者</u>の資質の向上のために、<u>その研修の機会を確保しなければならない。</u></p> <p>(定員の遵守) ☆準用</p> <p><u>第百二条</u> <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、利用定員を超えて<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供を行ってはならない。ただし、災害その他のやむを得ない事情がある場合は、この限りではない。</p> <p>(非常災害対策) ☆準用</p> <p><u>第百三条</u> <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、非常災害に関する具体的計画を<u>立て</u>、非常災害時の関係機関への通報及び連携体制を整備し、それらを定期的に従業員に周知<u>するとともに、定期的に避難、</u>救出その他必要な訓練を行わなければならない。</p>	<p><u>リテーション</u>を提供しなければならない。ただし、利用者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りでない。</p> <p>3 <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>通所リハビリテーション従業者</u>の資質の向上のために<u>研修計画を作成し、当該計画に従い、研修を実施しなければならない。</u></p> <p><u>4 指定通所リハビリテーション事業者は、通所リハビリテーション従業者の計画的な人材育成に努めなければならない。</u></p> <p>(定員の遵守) ☆準用</p> <p><u>第111条</u> <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、利用定員を超えて<u>指定通所リハビリテーション</u>の提供を行ってはならない。ただし、災害その他のやむを得ない事情がある場合は、この限りではない。</p> <p>(非常災害対策) ☆準用</p> <p><u>第112条</u> <u>指定通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定通所リハビリテーション事業所が立地する地域の自然条件等を踏まえ、想定される非常災害の種類ごとに、その規模及び被害の程度に応じた非常災害への対応</u>に関する具体的計画を<u>策定するとともに、</u>非常災害時の関係機関への通報及び<u>関係者との連携</u>の体制を整備し、それらの<u>内容（次項において「計画等」という。）</u>を定期的に従業員に周知<u>しなければならない。</u></p> <p><u>2 指定通所リハビリテーション事業者は、当該事業所の見やすい場所に、計画等の概要を掲示しなければならない。</u></p> <p><u>3 指定通所リハビリテーション事業者は、非常災害に備えるため、第1項の計画</u></p>
--	---



<p>(衛生管理等)</p> <p><b>第百十八条</b> 指定通所リハビリテーション事業者は、利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講ずるとともに、医薬品及び医療機器の管理を適正に行わなければならない。</p> <p>2 指定通所リハビリテーション事業者は、当該事業所において感染症が発生し、又はまん延しないように必要な措置を講ずるよう努めなければならない。</p> <p>(掲示) ☆準用</p> <p><b>第三十二条</b> 指定通所リハビリテーション事業者は、指定通所リハビリテーション事業所の見やすい場所に、<u>運営規程</u>の概要、<u>通所リハビリテーション従業者</u>の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を掲示しなければならない。</p> <p>(秘密保持等) ☆準用</p>	<p><u>に従い、避難又は救出に係る訓練</u>その他必要な訓練を、<u>その実効性を確保しつつ、定期的に行わなければならない。</u></p> <p><b>4</b> 指定通所リハビリテーション事業者は、非常災害時における利用者等の安全の確保が図られるよう、あらかじめ、近隣の自治体、地域住民、居宅サービス事業者その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者等と相互に支援及び協力を行うための体制の整備に努めるものとする。</p> <p><b>5</b> 指定通所リハビリテーション事業者は、非常災害時において、高齢者、障害者、乳幼児等特に配慮を要する者の受入れに努めるものとする。</p> <p>(衛生管理等)</p> <p><b>第146条</b> 指定通所リハビリテーション事業者は、利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講ずるとともに、医薬品及び医療機器の管理を適正に行わなければならない。</p> <p>2 指定通所リハビリテーション事業者は、当該事業所において感染症が発生し、又はまん延しないように必要な措置を講ずるよう努めなければならない。</p> <p>(掲示) ☆準用</p> <p><b>第34条</b> 指定通所リハビリテーション事業者は、指定通所リハビリテーション事業所の見やすい場所に、<u>重要事項に関する規程</u>の概要、<u>通所リハビリテーション従業者</u>の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を掲示しなければならない。</p> <p>(秘密保持等) ☆準用</p>
---	---

**第三十三条** 指定通所リハビリテーション事業所の従業者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らしてはならない。

2 指定通所リハビリテーション事業者は、当該指定通所リハビリテーション事業所の従業者であった者が、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らすことがないよう、必要な措置を講じなければならない。

3 指定通所リハビリテーション事業者は、サービス担当者会議等において、利用者の個人情報を用いる場合は利用者の同意を、利用者の家族の個人情報を用いる場合は当該家族の同意を、あらかじめ文書により得ておかなければならない。

(居宅介護支援事業者に対する利益供与の禁止) ☆準用

**第三十五条** 指定通所リハビリテーション事業者は、居宅介護支援事業者又はその従業者に対し、利用者に対して特定の事業者によるサービスを利用させることの対償として、金品その他の財産上の利益を供与してはならない。

(苦情処理) ☆準用

**第三十六条** 指定通所リハビリテーション事業者は、提供した指定通所リハビリテーションに係る利用者及びその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する等の必要な措置を講じなければならない。

2 指定通所リハビリテーション事業者は、前項の苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録しなければならない。

3 指定通所リハビリテーション事業者は、提供した指定通所リハビリテーションに関し、法第二十三条の規定により市町村が行う文書その他の物件の提出若しくは

**第35条** 指定通所リハビリテーション事業所の従業者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らしてはならない。

2 指定通所リハビリテーション事業者は、当該指定通所リハビリテーション事業所の従業者であった者が、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らすことがないよう、必要な措置を講じなければならない。

3 指定通所リハビリテーション事業者は、サービス担当者会議等において、利用者の個人情報を用いる場合は利用者の同意を、利用者の家族の個人情報を用いる場合は当該家族の同意を、あらかじめ文書により得ておかなければならない。

(居宅介護支援事業者に対する利益供与の禁止) ☆準用

**第37条** 指定通所リハビリテーション事業者は、居宅介護支援事業者又はその従業者に対し、利用者に対して特定の事業者によるサービスを利用させることの対償として、金品その他の財産上の利益を供与してはならない。

(苦情処理) ☆準用

**第38条** 指定通所リハビリテーション事業者は、提供した指定通所リハビリテーションに係る利用者又はその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する等の必要な措置を講じなければならない。

2 指定通所リハビリテーション事業者は、前項の苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録しなければならない。

3 指定通所リハビリテーション事業者は、提供した指定通所リハビリテーションに関し、法第23条の規定により市町村が行う文書その他の物件の提出若しくは

<p>は提示の求め又は当該市町村の職員からの質問若しくは照会に応じ、及び利用者からの苦情に関して市町村が行う調査に協力するとともに、市町村から指導又は助言を受けた場合においては、当該指導又は助言に従って必要な改善を行わなければならない。</p> <p>4 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、市町村からの求めがあった場合には、前項の改善の内容を市町村に報告しなければならない。</p> <p>5 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、提供した<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>に係る利用者からの苦情に関して国民健康保険団体連合会（国民健康保険法（昭和三十三年法律第九十二号）第四十五条第五項に規定する国民健康保険団体連合会をいう。以下同じ。）が行う法第七十六条第一項第三号の調査に協力するとともに、国民健康保険団体連合会から同号の指導又は助言を受けた場合においては、当該指導又は助言に従って必要な改善を行わなければならない。</p> <p>6 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、国民健康保険団体連合会からの求めがあった場合には、前項の改善の内容を国民健康保険団体連合会に報告しなければならない。</p> <p>（地域との連携） ☆準用</p> <p><a href="#">第三十六条の二</a> <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、その事業の運営に当たっては、提供した<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>に関する利用者からの苦情に関して市町村等が派遣する者が相談及び援助を行う事業その他の市町村が実施する事業に協力するよう努めなければならない。</p> <p>（事故発生時の対応） ☆準用</p>	<p>提示の求め又は当該市町村の職員からの質問若しくは照会に応じ、及び利用者からの苦情に関して市町村が行う調査に協力するとともに、市町村から指導又は助言を受けた場合においては、当該指導又は助言に従って必要な改善を行わなければならない。</p> <p>4 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、市町村からの求めがあった場合には、前項の改善の内容を市町村に報告しなければならない。</p> <p>5 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、提供した<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>に係る利用者からの苦情に関して国民健康保険団体連合会（国民健康保険法（昭和33年法律第192号）第45条第5項に規定する国民健康保険団体連合会をいう。以下同じ。）が行う法第176条第1項第3号の調査に協力するとともに、国民健康保険団体連合会から同号の指導又は助言を受けた場合においては、当該指導又は助言に従って必要な改善を行わなければならない。</p> <p>6 <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、国民健康保険団体連合会からの求めがあった場合には、前項の改善の内容を国民健康保険団体連合会に報告しなければならない。</p> <p>（地域との連携） ☆準用</p> <p><a href="#">第39条</a> <a href="#">指定通所リハビリテーション事業者</a>は、その事業の運営に当たっては、提供した<a href="#">指定通所リハビリテーション</a>に関する利用者からの苦情に関して市町村等が派遣する者が相談及び援助を行う事業その他の市町村が実施する事業に協力するよう努めなければならない。</p> <p>（事故発生時の対応） ☆準用</p>
--	--

**第三十七条** 指定通所リハビリテーション事業者は、利用者に対する指定通所リハビリテーションの提供により事故が発生した場合は、市町村、当該利用者の家族、当該利用者に係る居宅介護支援事業者等に連絡を行うとともに、必要な措置を講じなければならない。

2 指定通所リハビリテーション事業者は、前項の事故の状況及び事故に際して採った処置について記録しなければならない。

3 指定通所リハビリテーション事業者は、利用者に対する指定通所リハビリテーションの提供により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行わなければならない。

(会計の区分) ☆準用

**第三十八条** 指定通所リハビリテーション事業者は、指定通所リハビリテーション事業所ごとに経理を区分するとともに、指定通所リハビリテーションの事業の会計とその他の事業の会計を区分しなければならない。

(記録の整備)

**第百十八条の二** 指定通所リハビリテーション事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 指定通所リハビリテーション事業者は、利用者に対する指定通所リハビリテーションの提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、その完結の日から二年間保存しなければならない。

一 通所リハビリテーション計画

**第40条** 指定通所リハビリテーション事業者は、利用者に対する指定通所リハビリテーションの提供により事故が発生した場合は、市町村、当該利用者の家族、当該利用者に係る居宅介護支援事業者等に連絡を行うとともに、必要な措置を講じなければならない。

2 指定通所リハビリテーション事業者は、前項の事故の状況及び事故に際してとった処置について記録しなければならない。

3 指定通所リハビリテーション事業者は、利用者に対する指定通所リハビリテーションの提供により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行わなければならない。

(会計の区分) ☆準用

**第41条** 指定通所リハビリテーション事業者は、指定通所リハビリテーション事業所ごとに経理を区分するとともに、指定通所リハビリテーションの事業の会計とその他の事業の会計を区分しなければならない。

(記録の整備)

**第147条** 指定通所リハビリテーション事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 指定通所リハビリテーション事業者は、利用者に対する指定通所リハビリテーションの提供に関する次に掲げる記録を整備し、その完結の日から5年間保存しなければならない。

(1) 通所リハビリテーション計画

(2) 第142条第1項第5号に規定する身体的拘束等の態様及び時間、その際の

<p>二 次条において準用する第十九条第二項に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録</p> <p>三 次条において準用する<u>第二十六条</u>に規定する市町村への通知に係る記録</p> <p>四 次条において準用する<u>第三十六条</u>第二項に規定する苦情の内容等の記録</p> <p>五 次条において準用する<u>第三十七条</u>第二項に規定する事故の状況及び事故に際して<u>採った</u>処置についての記録</p> <p>(準用)</p> <p><u>第百十九条</u> 第八条から第十三条まで、第十五条から第十七条まで、第十九条、第二十一条、<u>第二十六条</u>、<u>第二十七条</u>、<u>第三十二条</u>、<u>第三十三条</u>、<u>第三十五条</u>から<u>第三十八条</u>まで、<u>第六十四条</u>、<u>第九十六条</u>及び<u>第百一条</u>から<u>第百三条</u>までの規定は、指定通所リハビリテーションの事業について準用する。この場合において、これらの規定中「訪問介護員等」とあるのは「通所リハビリテーション従業者」と、第八条中「<u>第二十九条</u>」とあるのは「<u>第百七条</u>」と、第十三条中「心身の状況」とあるのは「心身の状況、病歴」と、<u>第百一条</u>第三項中「通所介護従業者」とあるのは「通所リハビリテーション従業者」と読み替えるものとする。</p> <p>附 則</p> <p>(施行期日)</p>	<p><u>利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録</u></p> <p>(3) 次条において準用する第19条第二項に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録</p> <p>(4) 次条において準用する<u>第27条</u>に規定する市町村への通知に係る記録</p> <p>(5) 次条において準用する<u>第38条</u>第二項に規定する苦情の内容等の記録</p> <p>(6) 次条において準用する<u>第40条</u>第二項に規定する事故の状況及び事故に際して<u>とった</u>処置についての記録</p> <p>(7) 次条において準用する第110条第1項に規定する勤務の体制等の記録</p> <p>(8) <u>法第40条に規定する介護給付及び次条において準用する第105条第1項から第3項までに規定する利用料等に関する請求及び受領等の記録</u></p> <p>(準用)</p> <p><u>第148条</u> 第八条から第13条まで、第15条から第17条まで、第19条、第21条、<u>第27条</u>、<u>第28条</u>、<u>第34条</u>、<u>第35条</u>、<u>第37条</u>から<u>第41条</u>まで、<u>第70条</u>、<u>第105条</u>及び<u>第110条</u>から<u>第112条</u>までの規定は、指定通所リハビリテーションの事業について準用する。この場合において、これらの規定中「訪問介護員等」とあるのは「通所リハビリテーション従業者」と、第8条<u>第1項</u>中「<u>第30条</u>」とあるのは「<u>第145条</u>」と、第13条中「心身の状況」とあるのは「心身の状況、病歴」と、<u>第110条</u>第3項及び<u>第4項</u>中「通所介護従業者」とあるのは「通所リハビリテーション従業者」と読み替えるものとする。</p> <p>附 則</p> <p>(施行期日)</p>
---	--

第一条 この省令は、平成十二年四月一日から施行する。

(経過措置)

(略)

第1条 この条例は、平成25年4月1日（以下「施行日」という。）から施行する。

(経過措置)

第2条～第18条 (略)

第19条 施行日において現に法第41条第1項本文の規定に基づく指定を受けている短期入所生活介護事業者（施行日後に増築され、又は全面的に改築された部分を除く。）については、第153条第5項第4号又は第173条第5項第1号エの規定にかかわらず、基準省令第124条第6項第4号又は第140条の4第6項第1号ニの規定によることができる。

2 施行日において現に法第41条第1項本文の規定に基づく指定を受けている通所介護事業者又は通所リハビリテーション事業者（施行日後に増築され、又は全面的に改築された部分を除く。）については、第104条第2項第3号若しくは第121条第2項第2号又は第140条第2項第2号の規定は、当分の間適用しない。

第20条～第21条 (略)



6 岡山市指定介護予防サービス等の事業の人員，設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例  
(介護予防通所リハビリテーション関係部分)

(凡例)

従うべき基準・・・灰色のマーカー

標準・・・・・・・・下線

参酌すべき基準・・記号なし

省令	岡山市条例
指定介護予防サービス等の事業の人員，設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準	<u>岡山市</u> 指定介護予防サービス等の事業の人員，設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例
(平成十八年三月十四日)	平成24年12月19日
(厚生労働省令第三十五号)	岡山市条例第90号
第一章 総則	第1章 総則
(趣旨)	(趣旨)
第一条 <u>基準該当介護予防サービスの事業に係る介護保険法（平成九年法律第二百二十三号。以下「法」という。）第五十四条第二項の厚生労働省令で定める基準及び指定介護予防サービスの事業に係る法第百十五条の四第三項の厚生労働省令で定める基準は，次の各号に掲げる基準に応じ，それぞれ当該各号に定める規定による基準とする。</u>	第1条 <u>この条例は，介護保険法（平成9年法律第123号。以下「法」という。）第54条第1項第2号並びに第115条の4第1項及び第2項の規定に基づき，指定介護予防サービス及び基準該当介護予防サービスの事業の人員，設備及び運営並びに指定介護予防サービス及び基準該当介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定めるとともに，法第115条の2第2項第1号の規定に基づき，指定介護予防サービス事業者の指定に必要な申請者の要件を定めるものとする。</u>
<u>一～九</u> （略）	
(定義)	(定義)
第二条 この <u>省令</u> において，次の各号に掲げる用語の意義は，それぞれ当該各号に	第2条 この <u>条例</u> において，次の各号に掲げる用語の意義は，それぞれ当該各号に

<p>定めるところによる。</p> <p>一 介護予防サービス事業者 法第八条の二第一項に規定する介護予防サービス事業を行う者をいう。</p> <p>二 指定介護予防サービス事業者又は指定介護予防サービス それぞれ法第五十三条第一項に規定する指定介護予防サービス事業者又は指定介護予防サービスをいう。</p> <p>三 利用料 法第五十三条第一項に規定する介護予防サービス費の支給の対象となる費用に係る対価をいう。</p> <p>四 介護予防サービス費用基準額 法第五十三条第二項第一号又は第二号に規定する厚生労働大臣が定める基準により算定した費用の額（その額が現に当該指定介護予防サービスに要した費用の額を超えるときは、当該現に指定介護予防サービスに要した費用の額とする。）をいう。</p> <p>五 法定代理受領サービス 法第五十三条第四項の規定により介護予防サービス費が利用者に代わり当該指定介護予防サービス事業者に支払われる場合の当該介護予防サービス費に係る指定介護予防サービスをいう。</p> <p>六 基準該当介護予防サービス 法第五十四条第一項第二号に規定する基準該当介護予防サービスをいう。</p> <p>七 常勤換算方法 当該事業所の従業員の勤務延時間数を当該事業所において常勤の従業員が勤務すべき時間数で除することにより、当該事業所の従業員の員数を常勤の従業員の員数に換算する方法をいう。</p>	<p>定めるところによる。</p> <p>(1) 介護予防サービス事業者 法第8条の2第1項に規定する介護予防サービス事業を行う者をいう。</p> <p>(2) 指定介護予防サービス事業者又は指定介護予防サービス それぞれ法第53条第1項に規定する指定介護予防サービス事業者又は指定介護予防サービスをいう。</p> <p>(3) 利用料 法第53条第1項に規定する介護予防サービス費の支給の対象となる費用に係る対価をいう。</p> <p>(4) 介護予防サービス費用基準額 法第53条第2項第1号又は第2号に規定する厚生労働大臣が定める基準により算定した費用の額（その額が現に当該指定介護予防サービスに要した費用の額を超えるときは、当該現に指定介護予防サービスに要した費用の額とする。）をいう。</p> <p>(5) 法定代理受領サービス 法第53条第4項の規定により介護予防サービス費が利用者に代わり当該指定介護予防サービス事業者に支払われる場合の当該介護予防サービス費に係る指定介護予防サービスをいう。</p> <p>(6) 基準該当介護予防サービス 法第54条第1項第2号に規定する基準該当介護予防サービスをいう。</p> <p>(7) 常勤換算方法 当該事業所の従業員の勤務延時間数を当該事業所において常勤の従業員が勤務すべき時間数で除することにより、当該事業所の従業員の員数を常勤の従業員の員数に換算する方法をいう。</p> <p><u>(8) 基準省令 指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定</u></p>
--	--

<p>(指定介護予防サービスの事業の一般原則)</p> <p><u>第三条</u> 指定介護予防サービス事業者は、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めなければならない。</p>	<p><u>介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準（平成18年厚生労働省令第35号）をいう。</u></p> <p>(指定介護予防サービスの事業の一般原則)</p> <p><u>第3条 法第115条の2第2項第1号の条例で定める者は、法人とする。ただし、病院（医療法（昭和23年法律第205号）第1条の5第1項の病院をいう。以下同じ。）、診療所（同条第2項の診療所をいう。以下同じ。）若しくは薬局（薬事法（昭和35年法律第145号）第2条第11項の薬局をいう。以下同じ。）により行われる介護予防居宅療養管理指導又は病院若しくは診療所により行われる介護予防訪問看護、介護予防訪問リハビリテーション、介護予防通所リハビリテーション若しくは介護予防短期入所療養介護に係る指定の申請にあつては、この限りでない。</u></p> <p><u>2 前項に定める者の役員（業務を執行する社員、取締役、執行役又はこれらに準ずる者をいい、相談役、顧問その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、事業を行う者に対し業務を執行する社員、取締役、執行役又はこれらに準ずる者と同等以上の支配力を有するものと認められる者を含む。）及び当該申請に係る事業所を管理する者は、岡山市暴力団排除基本条例（平成24年市条例第3号）第2条第2号に規定する暴力団員であつてはならない。</u></p> <p><u>3 指定介護予防サービス事業者は、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めなければならない。</u></p> <p><u>4 指定介護予防サービス事業者は、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、責任者を設置する等必要な体制の整備を行うとともに、その従業者に対し、研修</u></p>
--	---

<p><u>2</u> 指定介護予防サービス事業者は、指定介護予防サービスの事業を運営するに当たっては、地域との結び付きを重視し、市町村 <u>(特別区を含む。以下同じ。)</u>、<u>他の</u>介護予防サービス事業者その他の保健医療サービス及び福祉サービスを提供する者との連携に努めなければならない。</p> <p>第二章～第七章 (略)</p> <p>第八章 介護予防通所リハビリテーション</p> <p>第一節 基本方針</p> <p><u>第百十六条</u> 指定介護予防サービスに該当する介護予防通所リハビリテーション（以下「指定介護予防通所リハビリテーション」という。）の事業は、その利用者が可能な限りその居宅において、自立した日常生活を営むことができるよう、理学療法、作業療法その他必要なりハビリテーションを行うことにより、利用者の心身機能の維持回復を図り、もって利用者の生活機能の維持又は向上を目指すものでなければならない。</p> <p>第二節 人員に関する基準</p> <p><u>第百十七条</u> 指定介護予防通所リハビリテーションの事業を行う者（以下「指定介</p>	<p><u>を実施する等の措置を講ずるよう努めなければならない。</u></p> <p><u>5</u> 指定介護予防サービス事業者は、指定介護予防サービスの事業を運営するに当たっては、地域との結び付きを重視し、市町村 <u>、地域包括支援センター（法第115条の4第1項に規定する地域包括支援センターをいう。以下同じ。)</u>、介護予防サービス事業者その他の保健医療サービス及び福祉サービスを提供する者との連携に努めなければならない。</p> <p><u>6 指定介護予防サービス事業者は、地域包括支援センターから求めがあった場合には、地域ケア会議に参加するよう努めなければならない。</u></p> <p>第二章～第七章 (略)</p> <p>第八章 介護予防通所リハビリテーション</p> <p>第1節 基本方針</p> <p><u>(基本方針)</u></p> <p><u>第119条</u> 指定介護予防サービスに該当する介護予防通所リハビリテーション（以下「指定介護予防通所リハビリテーション」という。）の事業は、その利用者が可能な限りその居宅において、自立した日常生活を営むことができるよう、理学療法、作業療法その他必要なりハビリテーションを行うことにより、利用者の心身機能の維持回復を図り、もって利用者の生活機能の維持又は向上を目指すものでなければならない。</p> <p>第2節 人員に関する基準</p> <p><u>(従業者の員数)</u></p> <p><u>第120条</u> 指定介護予防通所リハビリテーションの事業を行う者（以下「指定介</p>
--	---

「介護予防通所リハビリテーション事業者」という。)が、当該事業を行う事業所(以下「指定介護予防通所リハビリテーション事業所」という。)ごとに置くべき指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる従業者(以下「介護予防通所リハビリテーション従業者」という。)の員数は、次のとおりとする。

一 医師 指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たらせるために必要な1以上の数

二 理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護師若しくは准看護師(以下この章において「看護職員」という。)若しくは介護職員 次に掲げる基準を満たすために必要と認められる数

イ 指定介護予防通所リハビリテーションの単位ごとに、利用者(当該指定介護予防通所リハビリテーション事業者が指定通所リハビリテーション事業者(指定居宅サービス等基準**第百十一条**第一項に規定する指定通所リハビリテーション事業者をいう。以下同じ。))の指定を併せて受け、かつ、指定介護予防通所リハビリテーションの事業と指定通所リハビリテーション(指定居宅サービス等基準**第百十条**に規定する指定通所リハビリテーションをいう。以下同じ。)の事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合にあつては、当該事業所における指定介護予防通所リハビリテーション又は指定通所リハビリテーションの利用者。以下この節及び次節において同じ。)の数が十人以下の場合は、その提供を行う時間帯(以下この条において「**提供時間**」という。)を通じて専ら当該指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護

「介護予防通所リハビリテーション事業者」という。)が、当該事業を行う事業所(以下「指定介護予防通所リハビリテーション事業所」という。)ごとに置くべき指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる従業者(以下「介護予防通所リハビリテーション従業者」という。)の員数は、次のとおりとする。

(1) 医師 指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たらせるために必要な1以上の数

(2) 理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護師若しくは准看護師(以下この章において「看護職員」という。)若しくは介護職員 次に掲げる基準を満たすために必要と認められる数

ア 指定介護予防通所リハビリテーションの単位ごとに、利用者(当該指定介護予防通所リハビリテーション事業者が指定通所リハビリテーション事業者(指定居宅サービス等基準**条例第139条**第1項に規定する指定通所リハビリテーション事業者をいう。以下同じ。))の指定を併せて受け、かつ、指定介護予防通所リハビリテーションの事業と指定通所リハビリテーション(指定居宅サービス等基準**条例第138条**に規定する指定通所リハビリテーションをいう。以下同じ。)の事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合にあつては、当該事業所における指定介護予防通所リハビリテーション又は指定通所リハビリテーションの利用者。以下この節及び次節において同じ。)の数が10人以下の場合は、その提供を行う時間帯(以下この条において「**提供時間帯**」という。)を通じて専ら当該指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言

職員若しくは介護職員の数が一以上確保されていること、又は、利用者の数が十人を超える場合は、提供時間を通じて専ら当該指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が、利用者の数を十で除した数以上確保されていること。

ロ イに掲げる人員のうち専らリハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士が、利用者が百又はその端数を増すごとに一以上確保されていること。

2 指定介護予防通所リハビリテーション事業所が診療所である場合は、前項第二号の規定にかかわらず、次のとおりとすることができる。

一 指定介護予防通所リハビリテーションの単位ごとに、利用者の数が十人以下の場合は、提供時間帯を通じて専ら当該指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が一以上確保されていること、又は、利用者の数が十人を超える場合は、提供時間を通じて専ら当該指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が、利用者の数を十で除した数以上確保されていること。

二 前号に掲げる人員のうち専ら当該指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は介護予防通所リハビリテーション若しくはこれに類するサービスに一年以上従事した経験を有する看護師が、常勤換算方法で、〇・一以上確保されること。

言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員の数が1以上確保されていること、又は利用者の数が10人を超える場合は、提供時間帯を通じて専ら当該指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が、利用者の数を10で除して得た数以上確保されていること。

イ アに掲げる人員のうち専らリハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士が、利用者が100又はその端数を増すごとに1以上確保されていること。

2 指定介護予防通所リハビリテーション事業所が診療所である場合は、前項第二号の規定にかかわらず、次のとおりとすることができる。

(1) 指定介護予防通所リハビリテーションの単位ごとに、利用者の数が10人以下の場合は、提供時間帯を通じて専ら当該指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が1以上確保されていること、又は利用者の数が10人を超える場合は、提供時間帯を通じて専ら当該指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が、利用者の数を10で除して得た数以上確保されていること。

(2) 前号に掲げる人員のうち専ら当該指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は介護予防通所リハビリテーション若しくはこれに類するサービスに1年以上従事した経験を有する看護師が、常勤換算方法で、0.1以上確保されること。



3 第1項第1号の医師は、常勤でなければならない。

4 指定介護予防通所リハビリテーション事業者が指定通所リハビリテーション事業者（指定居宅サービス等基準第百十一条第一項に規定する指定通所リハビリテーション事業者をいう。以下同じ。）の指定を併せて受け、かつ、指定介護予防通所リハビリテーションの事業と指定通所リハビリテーション（指定居宅サービス等基準第百十条に規定する指定通所リハビリテーションをいう。以下同じ。）の事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合については、指定居宅サービス等基準第百十一条第一項から第三項までに規定する人員に関する基準を満たすことをもって、前三項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

### 第三節 設備に関する基準

第百十八条 指定介護予防通所リハビリテーション事業所は、指定介護予防通所リハビリテーションを行うにふさわしい専用の部屋等であつて、三平方メートルに利用定員（当該指定介護予防通所リハビリテーション事業所において同時に指定介護予防通所リハビリテーションの提供を受けることができる利用者の数の上限をいう。以下この節及び次節において同じ。）を乗じた面積以上のものを有しなければならない。ただし、当該指定介護予防通所リハビリテーション事業所が介護老人保健施設である場合にあっては、当該専用の部屋等の面積に利用者用に確保されている食堂（リハビリテーションに供用されるものに限る。）の面積を加えるものとする。

3 第1項第1号の医師は、常勤でなければならない。

4 指定介護予防通所リハビリテーション事業者が指定通所リハビリテーション事業者の指定を併せて受け、かつ、指定介護予防通所リハビリテーションの事業と指定通所リハビリテーションの事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合については、指定居宅サービス等基準条例第139条第1項から第3項までに規定する人員に関する基準を満たすことをもって、前3項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

### 第3節 設備に関する基準

#### （設備に関する基準）

第121条 指定介護予防通所リハビリテーション事業所は、指定介護予防通所リハビリテーションを行うにふさわしい専用の部屋等、便所及び洗面設備を有するほか、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備並びに指定介護予防通所リハビリテーションを行うために必要な専用の機械及び器具を備えなければならない。

#### 2 前項に掲げる設備の基準は、次のとおりとする。

(1) 専用の部屋等 三平方メートルに利用定員（当該指定介護予防通所リハビリテーション事業所において同時に指定介護予防通所リハビリテーションの提供を受けることができる利用者の数の上限をいう。以下この節及び次節において

2 指定介護予防通所リハビリテーション事業所は、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備並びに指定介護予防通所リハビリテーションを行うために必要な専用の機械及び器具を備えなければならない。

3 指定介護予防通所リハビリテーション事業者が指定通所リハビリテーション事業者の指定を併せて受け、かつ、指定介護予防通所リハビリテーションの事業と指定通所リハビリテーションの事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合については、指定居宅サービス等基準第百十二条第一項及び第二項に規定する設備に関する基準を満たすことをもって、前二項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

#### 第四節 運営に関する基準

(内容及び手続の説明及び同意) ☆準用

第八条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションの提供の開始に際し、あらかじめ、利用申込者又はその家族に対し、第百二十条に規定する重要事項に関する規程の概要、介護予防通所リハビリテーション従業者の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を記した文書を交付して説明を行い、当該提供の開始について利用申込者の同意を得なければならない。

2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、利用申込者又はその家族からの申出があった場合には、前項の規定による文書の交付に代えて、第五項で定め

同じ。)を乗じて得た面積以上とすること。ただし、当該指定介護予防通所リハビリテーション事業所が介護老人保健施設である場合にあっては、当該専用の部屋等の面積に利用者用に確保されている食堂(リハビリテーションに供用されるものに限る。)の面積を加えるものとする。

(2) 便所 要支援者が使用するのに適したものとすること。

3 指定介護予防通所リハビリテーション事業者が指定通所リハビリテーション事業者の指定を併せて受け、かつ、指定介護予防通所リハビリテーションの事業と指定通所リハビリテーションの事業とが同一の事業所において一体的に運営されている場合については、指定居宅サービス等基準条例第140条第1項及び第2項に規定する設備に関する基準を満たすことをもって、前2項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

#### 第4節 運営に関する基準

(内容及び手続の説明及び同意) ☆準用

第8条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションの提供の開始に際し、あらかじめ、利用申込者又はその家族に対し、第124条に規定する重要事項に関する規程の概要、介護予防通所リハビリテーション従業者の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を記した文書を交付して説明を行い、当該提供の開始について利用申込者の同意を得なければならない。

2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、利用申込者又はその家族からの申出があった場合には、前項の規定による文書の交付に代えて、第5項で定め

<p>るところにより、当該利用申込者又はその家族の承諾を得て、当該文書に記すべき重要事項を電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であって次に掲げるもの（以下この条において「電磁的方法」という。）により提供することができる。この場合において、当該<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、当該文書を交付したものとみなす。</p> <p>一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの</p> <p>イ <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機と利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法</p> <p>ロ <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された前項に規定する重要事項を電気通信回線を通じて利用申込者又はその家族の閲覧に供し、当該利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該重要事項を記録する方法（電磁的方法による提供を受ける旨の承諾又は受けない旨の申出をする場合にあっては、<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機に備えられたファイルにその旨を記録する方法）</p> <p>二 磁気ディスク、シー・ディー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物をもって調製するファイルに前項に規定する重要事項を記録したものを交付する方法</p> <p>3 前項に掲げる方法は、利用申込者又はその家族がファイルへの記録を出力する</p>	<p>るところにより、当該利用申込者又はその家族の承諾を得て、当該文書に記すべき重要事項を電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であって次に掲げるもの（以下この条において「電磁的方法」という。）により提供することができる。この場合において、当該<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、当該文書を交付したものとみなす。</p> <p>(1) 電子情報処理組織を使用する方法のうちア又はイに掲げるもの</p> <p>ア <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機と利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法</p> <p>イ <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された前項に規定する重要事項を電気通信回線を通じて利用申込者又はその家族の閲覧に供し、当該利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該重要事項を記録する方法（電磁的方法による提供を受ける旨の承諾又は受けない旨の申出をする場合にあっては、<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>の使用に係る電子計算機に備えられたファイルにその旨を記録する方法）</p> <p>(2) 磁気ディスク、シー・ディー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物をもって調製するファイルに前項に規定する重要事項を記録したものを交付する方法</p> <p>3 前項に掲げる方法は、利用申込者又はその家族がファイルへの記録を出力する</p>
---	---

<p>ことによる文書を作成することができるものでなければならない。</p> <p>4 第二項第一号の「電子情報処理組織」とは、<a href="#">指定介護予防通所リハビリテーション事業者</a>の使用に係る電子計算機と、利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。</p> <p>5 <a href="#">指定介護予防通所リハビリテーション事業者</a>は、第二項の規定により第一項に規定する重要事項を提供しようとするときは、あらかじめ、当該利用申込者又はその家族に対し、その用いる次に掲げる電磁的方法の種類及び内容を示し、文書又は電磁的方法による承諾を得なければならない。</p> <p>一 第二項各号に規定する方法のうち<a href="#">指定介護予防通所リハビリテーション事業者</a>が使用するもの</p> <p>二 ファイルへの記録の方式</p> <p>6 前項の規定による承諾を得た<a href="#">指定介護予防通所リハビリテーション事業者</a>は、当該利用申込者又はその家族から文書又は電磁的方法により電磁的方法による提供を受けない旨の申出があったときは、当該利用申込者又はその家族に対し、第一項に規定する重要事項の提供を電磁的方法によってしてはならない。ただし、当該利用申込者又はその家族が再び前項の規定による承諾をした場合は、この限りでない。</p> <p>(提供拒否の禁止) ☆準用</p> <p>第九条 <a href="#">指定介護予防通所リハビリテーション事業者</a>は、正当な理由なく<a href="#">指定介護予防通所リハビリテーション</a>の提供を拒んではならない。</p> <p>(サービス提供困難時の対応) ☆準用</p>	<p>ことによる文書を作成することができるものでなければならない。</p> <p>4 第2項第1号の「電子情報処理組織」とは、<a href="#">指定介護予防通所リハビリテーション事業者</a>の使用に係る電子計算機と、利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。</p> <p>5 <a href="#">指定介護予防通所リハビリテーション事業者</a>は、第2項の規定により第1項に規定する重要事項を提供しようとするときは、あらかじめ、当該利用申込者又はその家族に対し、その用いる次に掲げる電磁的方法の種類及び内容を示し、文書又は電磁的方法による承諾を得なければならない。</p> <p>(1) 第2項各号に規定する方法のうち<a href="#">指定介護予防通所リハビリテーション事業者</a>が使用するもの</p> <p>(2) ファイルへの記録の方式</p> <p>6 前項の規定による承諾を得た<a href="#">指定介護予防通所リハビリテーション事業者</a>は、当該利用申込者又はその家族から文書又は電磁的方法により電磁的方法による提供を受けない旨の申出があったときは、当該利用申込者又はその家族に対し、第1項に規定する重要事項の提供を電磁的方法によってしてはならない。ただし、当該利用申込者又はその家族が再び前項の規定による承諾をした場合は、この限りでない。</p> <p>(提供拒否の禁止) ☆準用</p> <p>第9条 <a href="#">指定介護予防通所リハビリテーション事業者</a>は、正当な理由なく<a href="#">指定介護予防通所リハビリテーション</a>の提供を拒んではならない。</p> <p>(サービス提供困難時の対応) ☆準用</p>
--	--

第十条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、当該指定介護予防通所リハビリテーション事業所の通常の事業の実施地域（当該事業所が通常時に当該サービスを提供する地域をいう。以下同じ。）等を勘案し、利用申込者に対し自ら適切な指定介護予防通所リハビリテーションを提供することが困難であると認めた場合は、当該利用申込者に係る介護予防支援事業者への連絡、適当な他の指定介護予防通所リハビリテーション事業者等の紹介その他の必要な措置を速やかに講じなければならない。

（受給資格等の確認） ☆準用

第十一条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションの提供を求められた場合は、その者の提示する被保険者証によって、被保険者資格、要支援認定の有無及び要支援認定の有効期間を確かめるものとする。

2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、前項の被保険者証に、法第十五条の三第二項の規定により認定審査会意見が記載されているときは、当該認定審査会意見に配慮して、指定介護予防通所リハビリテーションを提供するように努めなければならない。

（要支援認定の申請に係る援助） ☆準用

第十二条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションの提供の開始に際し、要支援認定を受けていない利用申込者については、要支援認定の申請が既に行われているかどうかを確認し、申請が行われ

第10条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、当該指定介護予防通所リハビリテーション事業所の通常の事業の実施地域（当該事業所が通常時に当該サービスを提供する地域をいう。以下同じ。）等を勘案し、利用申込者に対し自ら適切な指定介護予防通所リハビリテーションを提供することが困難であると認めた場合は、当該利用申込者に係る介護予防支援事業者（法第8条の2第18項に規定する介護予防支援を行う者をいう。以下同じ。）への連絡、適当な他の指定介護予防通所リハビリテーション事業者等の紹介その他の必要な措置を速やかに講じなければならない。

（受給資格等の確認） ☆準用

第11条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションの提供を求められた場合は、その者の提示する被保険者証によって、被保険者資格、要支援認定の有無及び要支援認定の有効期間を確かめるものとする。

2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、前項の被保険者証に、法第15条の3第2項の規定により認定審査会意見が記載されているときは、当該認定審査会意見に配慮して、指定介護予防通所リハビリテーションを提供するように努めなければならない。

（要支援認定の申請に係る援助） ☆準用

第12条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションの提供の開始に際し、要支援認定を受けていない利用申込者については、要支援認定の申請が既に行われているかどうかを確認し、申請が行われ



<p>ていない場合は、当該利用申込者の意思を踏まえて速やかに当該申請が行われるよう必要な援助を行わなければならない。</p> <p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、介護予防支援（これに相当するサービスを含む。）が利用者に対して行われていない等の場合であって必要と認めるときは、要支援認定の更新の申請が、遅くとも当該利用者が受けている要支援認定の有効期間が終了する三十日前にはなされるよう、必要な援助を行わなければならない。</p> <p>（心身の状況等の把握） ☆準用</p> <p>第十三条 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の提供に当たっては、利用者に係る介護予防支援事業者が開催するサービス担当者会議（指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準（平成十八年厚生労働省令第三十七号。以下「指定介護予防支援等基準」という。）第三十条第九号に規定するサービス担当者会議をいう。以下同じ。）等を通じて、利用者の<u>心身の状況、病歴</u>、その置かれている環境、他の保健医療サービス又は福祉サービスの利用状況等の把握に努めなければならない。</p> <p>（介護予防支援事業者等との連携） ☆準用</p> <p><u>第六十七条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>を提供するに当たっては、介護予防支援事業者<u>その他</u>保健医療サービス<u>又は</u>福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。</p>	<p>ていない場合は、当該利用申込者の意思を踏まえて速やかに当該申請が行われるよう必要な援助を行わなければならない。</p> <p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、介護予防支援（これに相当するサービスを含む。）が利用者に対して行われていない等の場合であって必要と認めるときは、要支援認定の更新の申請が、遅くとも当該利用者が受けている要支援認定の有効期間が終了する30日前にはなされるよう、必要な援助を行わなければならない。</p> <p>（心身の状況等の把握） ☆準用</p> <p>第13条 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の提供に当たっては、利用者に係る介護予防支援事業者が開催するサービス担当者会議（指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準（平成18年厚生労働省令第37号。以下「指定介護予防支援等基準」という。）第30条第9号に規定するサービス担当者会議をいう。以下同じ。）等を通じて、利用者の<u>心身の状況、病歴</u>、その置かれている環境、他の保健医療サービス又は福祉サービスの利用状況等の把握に努めなければならない。</p> <p>（介護予防支援事業者等との連携） ☆準用</p> <p><u>第69条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>を提供するに当たっては、介護予防支援事業者、<u>地域包括支援センター又は</u>保健医療サービス<u>若しくは</u>福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。</p>
--	--



<p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の提供の終了に際しては、利用者又はその家族に対して適切な指導を行うとともに、主治の医師及び介護予防支援事業者に対する情報の提供並びに保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。</p> <p>(介護予防サービス費の支給を受けるための援助) ☆準用</p> <p>第十五条 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の提供の開始に際し、利用申込者が介護保険法施行規則（平成十一年厚生省令第三十六号。以下「施行規則」という。）第八十三条の九各号のいずれにも該当しないときは、当該利用申込者又はその家族に対し、介護予防サービス計画の作成を介護予防支援事業者に依頼する旨を市町村に対して届け出ること等により、介護予防サービス費の支給を受けることができる旨を説明すること、介護予防支援事業者に関する情報を提供することその他の介護予防サービス費の支給を受けるために必要な援助を行わなければならない。</p> <p>(介護予防サービス計画に沿ったサービスの提供) ☆準用</p> <p>第十六条 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、介護予防サービス計画（<u>施行規則第八十三条の九第一号ハ及びニに規定する計画を含む。以下同じ。</u>）が作成されている場合は、当該計画に沿った<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>を提供しなければならない。</p> <p>(介護予防サービス計画等の変更の援助) ☆準用</p>	<p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の提供の終了に際しては、利用者又はその家族に対して適切な指導を行うとともに、主治の医師及び介護予防支援事業者に対する情報の提供並びに<u>地域包括支援センターその他</u>保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。</p> <p>(介護予防サービス費の支給を受けるための援助) ☆準用</p> <p>第15条 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の提供の開始に際し、利用申込者が介護保険法施行規則（平成11年厚生省令第36号。以下「施行規則」という。）第83条の9各号のいずれにも該当しないときは、当該利用申込者又はその家族に対し、介護予防サービス計画（<u>同条第1号ハ及びニに規定する計画を含む。以下同じ。</u>）の作成を介護予防支援事業者に依頼する旨を市町村に対して届け出ること等により、介護予防サービス費の支給を受けることができる旨を説明すること、介護予防支援事業者に関する情報を提供することその他の介護予防サービス費の支給を受けるために必要な援助を行わなければならない。</p> <p>(介護予防サービス計画に沿ったサービスの提供) ☆準用</p> <p>第16条 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、介護予防サービス計画が作成されている場合は、当該計画に沿った<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>を提供しなければならない。</p> <p>(介護予防サービス計画等の変更の援助) ☆準用</p>
--	---

第十七条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、利用者が介護予防サービス計画の変更を希望する場合は、当該利用者に係る介護予防支援事業者への連絡その他の必要な援助を行わなければならない。

(サービスの提供の記録) ☆準用

第十九条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションを提供した際には、当該指定介護予防通所リハビリテーションの提供日及び内容、当該指定介護予防通所リハビリテーションについて法第五十三条第四項の規定により利用者に代わって支払を受ける介護予防サービス費の額その他必要な事項を、利用者の介護予防サービス計画を記載した書面又はこれに準ずる書面に記載しなければならない。

2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションを提供した際には、提供した具体的なサービスの内容等を記録するとともに、利用者からの申出があった場合には、文書の交付その他適切な方法により、その情報を利用者に対して提供しなければならない。

(利用料の受領) ☆準用

**第百条** 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、法定代理受領サービスに該当する指定介護予防通所リハビリテーションを提供した際には、その利用者から利用料の一部として、当該指定介護予防通所リハビリテーションに係る介護予防サービス費用基準額から当該指定介護予防通所リハビリテーション事業者に支払われる介護予防サービス費の額を控除して得た額の支払を受けるものとする。

第17条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、利用者が介護予防サービス計画の変更を希望する場合は、当該利用者に係る介護予防支援事業者への連絡その他の必要な援助を行わなければならない。

(サービスの提供の記録) ☆準用

第19条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションを提供した際には、当該指定介護予防通所リハビリテーションの提供日及び内容、当該指定介護予防通所リハビリテーションについて法第53条第四項の規定により利用者に代わって支払を受ける介護予防サービス費の額その他必要な事項を、利用者の介護予防サービス計画を記載した書面又はこれに準ずる書面に記載しなければならない。

2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションを提供した際には、提供した具体的なサービスの内容等を記録するとともに、利用者からの申出があった場合には、文書の交付その他適切な方法により、その情報を利用者に対して提供しなければならない。

(利用料の受領) ☆準用

**第102条** 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、法定代理受領サービスに該当する指定介護予防通所リハビリテーションを提供した際には、その利用者から利用料の一部として、当該指定介護予防通所リハビリテーションに係る介護予防サービス費用基準額から当該指定介護予防通所リハビリテーション事業者に支払われる介護予防サービス費の額を控除して得た額の支払を受けるものとする。

<p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、法定代理受領サービスに該当しない<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>を提供した際にその利用者から支払を受ける利用料の額と、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>に係る介護予防サービス費用基準額との間に、不合理な差額が生じないようにしなければならない。</p> <p>3 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、前二項の支払を受ける額のほか、次の各号に掲げる費用の額の支払を利用者から受けることができる。</p> <p>一 利用者の選定により通常の事業の実施地域以外の地域に居住する利用者に対して行う送迎に要する費用</p> <p>二 食事の提供に要する費用</p> <p>三 おむつ代</p> <p>四 前三号に掲げるもののほか、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の提供において提供される便宜のうち、日常生活においても通常必要となるものに係る費用であって、その利用者に負担させることが適当と認められる費用</p> <p>4 前項第二号に掲げる費用については、<u>別に厚生労働大臣が定めるところ</u>によるものとする。</p> <p>5 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、第三項の費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、利用者又はその家族に対し、当該サービス内容及び費用について説明を行い、利用者の同意を得なければならない。</p> <p>(保険給付の請求のための証明書の交付) ☆準用</p> <p>第二十一条 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、法定代理受領サービス</p>	<p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、法定代理受領サービスに該当しない<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>を提供した際にその利用者から支払を受ける利用料の額と、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>に係る介護予防サービス費用基準額との間に、不合理な差額が生じないようにしなければならない。</p> <p>3 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、前2項の支払を受ける額のほか、次に掲げる費用の額の支払を利用者から受けることができる。</p> <p>(1) 利用者の選定により通常の事業の実施地域以外の地域に居住する利用者に対して行う送迎に要する費用</p> <p>(2) 食事の提供に要する費用</p> <p>(3) おむつ代</p> <p>(4) 前3号に掲げるもののほか、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の提供において提供される便宜のうち、日常生活においても通常必要となるものに係る費用であって、その利用者に負担させることが適当と認められる費用</p> <p>4 前項第2号に掲げる費用については、<u>基準省令第100条第4項に規定する平成17年厚生労働省告示第419号により厚生労働大臣が定めるところ</u>によるものとする。</p> <p>5 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、第3項の費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、利用者又はその家族に対し、当該サービス内容及び費用について説明を行い、利用者の同意を得なければならない。</p> <p>(保険給付の請求のための証明書の交付) ☆準用</p> <p>第21条 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、法定代理受領サービス</p>
---	--

<p>スに該当しない <u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>に係る利用料の支払を受けた場合は、提供した<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の内容、費用の額その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書を利用者に対して交付しなければならない。</p> <p>(利用者に関する市町村への通知) ☆準用</p> <p><u>第二十三条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>を受けている利用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、遅滞なく、意見を付してその旨を市町村に通知しなければならない。</p> <p>一 正当な理由なしに<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の利用に関する指示に従わないことにより、要支援状態の程度を増進させたと認められるとき又は要介護状態になったと認められるとき。</p> <p>二 偽りその他不正な行為によって保険給付を受け、又は受けようとしたとき。</p> <p>(緊急時等の対応) ☆準用</p>	<p>に該当しない <u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>に係る利用料の支払を受けた場合は、提供した<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の内容、費用の額その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書を利用者に対して交付しなければならない。</p> <p><u>(身体的拘束等の禁止)</u></p> <p><u>第122条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、<u>身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為を行ってはならない。</u></p> <p><u>2</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。</u></p> <p>(利用者に関する市町村への通知) ☆準用</p> <p><u>第24条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>を受けている利用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、遅滞なく、意見を付してその旨を市町村に通知しなければならない。</p> <p>(1) 正当な理由なしに<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の利用に関する指示に従わないことにより、要支援状態の程度を増進させたと認められるとき又は要介護状態になったと認められるとき。</p> <p>(2) 偽りその他不正な行為によって保険給付を受け、又は受けようとしたとき。</p> <p>(緊急時等の対応) ☆準用</p>
---	---

**第二十四条** 介護予防通所リハビリテーション従業者は、現に指定介護予防通所リハビリテーションの提供を行っているときに利用者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主治の医師への連絡を行う等の必要な措置を講じなければならない。

(管理者等の責務)

**第百十九条** 指定介護予防通所リハビリテーション事業所の管理者は、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又は専ら指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる看護師のうちから選任した者に、必要な管理の代行をさせることができる。

2 指定介護予防通所リハビリテーション事業所の管理者又は前項の管理を代行する者は、指定介護予防通所リハビリテーション事業所の従業者にこの節及び次節の規定を遵守させるための必要な指揮命令を行うものとする。

(運営規程)

**第百二十条** 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーション事業所ごとに、次に掲げる事業の運営についての重要事項に関する規程を定めておかなければならない。

- 一 事業の目的及び運営の方針
- 二 従業者の職種、員数及び職務の内容
- 三 営業日及び営業時間
- 四 指定介護予防通所リハビリテーションの利用定員
- 五 指定介護予防通所リハビリテーションの内容及び利用料その他の費用の額

**第25条** 介護予防通所リハビリテーション従業者は、現に指定介護予防通所リハビリテーションの提供を行っているときに利用者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主治の医師への連絡を行う等の必要な措置を講じなければならない。

(管理者等の責務)

**第123条** 指定介護予防通所リハビリテーション事業所の管理者は、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又は専ら指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる看護師のうちから選任した者に、必要な管理の代行をさせることができる。

2 指定介護予防通所リハビリテーション事業所の管理者又は前項の管理を代行する者は、指定介護予防通所リハビリテーション事業所の従業者にこの節及び次節の規定を遵守させるための必要な指揮命令を行うものとする。

(運営規程)

**第124条** 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーション事業所ごとに、次に掲げる事業の運営についての重要事項に関する規程を定めておかなければならない。

- (1) 事業の目的及び運営の方針
- (2) 従業者の職種、員数及び職務の内容
- (3) 営業日及び営業時間
- (4) 指定介護予防通所リハビリテーションの利用定員
- (5) 指定介護予防通所リハビリテーションの内容及び利用料その他の費用の額

<p>六 通常の事業の実施地域</p> <p>七 サービス利用に当たっての留意事項</p> <p><u>八</u> 非常災害対策</p> <p><u>九</u> その他運営に関する重要事項 (勤務体制の確保等) ☆準用</p> <p><u>第百二条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、利用者に対し適切な<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>を提供できるよう、<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>ごとに従業員の勤務の体制を定めておかなければならない。</p> <p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>ごとに、当該<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>の従業員によって<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>を提供しなければならない。ただし、利用者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りでない。</p> <p>3 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>介護予防通所リハビリテーション従業者</u>の資質の向上のために、<u>その研修の機会を確保しなければならない。</u></p>	<p>(6) 通常の事業の実施地域</p> <p>(7) サービス利用に当たっての留意事項</p> <p><u>(8) 緊急時、事故発生時等における対応方法</u></p> <p><u>(9) 非常災害対策</u></p> <p><u>(10) 虐待の防止のための措置に関する事項</u></p> <p><u>(11) 成年後見制度の活用支援</u></p> <p><u>(12) 苦情解決体制の整備</u></p> <p><u>(13) その他運営に関する重要事項</u> (勤務体制の確保等) ☆準用</p> <p><u>第105条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、利用者に対し適切な<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>を提供できるよう、<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>ごとに従業員の勤務の体制を定め、<u>その勤務の実績とともに記録</u>しておかなければならない。</p> <p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>ごとに、当該<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>の従業員によって<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>を提供しなければならない。ただし、利用者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りでない。</p> <p>3 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>介護予防通所リハビリテーション従業者</u>の資質の向上のために<u>研修計画を作成し、当該計画に従い、研修を実施しなければならない。</u></p> <p><u>4 指定介護予防通所介護事業者は、介護予防通所介護従業者の計画的な人材育成</u></p>
---	--



<p>(定員の遵守) ☆準用</p> <p><u>第百三条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、利用定員を超えて指定介護予防通所介護の提供を行ってはならない。ただし、災害その他のやむを得ない事情がある場合は、この限りでない。</p> <p>(非常災害対策) ☆準用</p> <p><u>第百四条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、非常災害に関する具体的計画を<u>立て</u>、非常災害時の関係機関への通報及び連携体制を整備し、それらを定期的に従業者に周知するとともに、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行わなければならない。</p>	<p><u>に努めなければならない。</u></p> <p>(定員の遵守) ☆準用</p> <p><u>第106条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、利用定員を超えて指定介護予防通所介護の提供を行ってはならない。ただし、災害その他のやむを得ない事情がある場合は、この限りでない。</p> <p>(非常災害対策) ☆準用</p> <p><u>第107条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所が立地する地域の自然条件等を踏まえ、想定される非常災害の種類ごとに、その規模及び被害の程度に応じた非常災害への対応</u>に関する具体的計画を<u>策定するとともに</u>、非常災害時の関係機関への通報及び<u>関係者との連携の</u>体制を整備し、それら<u>の内容</u>（次項において「計画等」という。）を定期的に従業者に周知<u>しなければならない。</u></p> <p><u>2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、当該事業所の見やすい場所に、計画等の概要を掲示しなければならない。</u></p> <p><u>3 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、非常災害に備えるため、第1項の計画に従い、避難又は救出に係る訓練</u>その他必要な訓練を、<u>その実効性を確保しつつ、定期的に行わなければならない。</u></p> <p><u>4 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、非常災害時における利用者等の安全の確保が図られるよう、あらかじめ、近隣の自治体、地域住民、介護予防サービス事業者その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者等と相互に支援及び協力を行うための体制の整備に努めるものとする。</u></p>
---	---

<p>(衛生管理等)</p> <p><b>第百二十一条</b> 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講ずるとともに、医薬品及び医療機器の管理を適正に行わなければならない。</p> <p>2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、当該事業所において感染症が発生し、又はまん延しないように必要な措置を講ずるよう努めなければならない。</p> <p>(掲示) ☆準用</p> <p><b>第三十条</b> 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>の見やすい場所に、<b>第百二十条</b>に規定する重要事項に関する規程の概要、<u>介護予防通所リハビリテーション従業者</u>の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を掲示しなければならない。</p> <p>(秘密保持等) ☆準用</p> <p><b>第三十一条</b> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>の従業者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らしてはならない。</p> <p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、当該<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>の従業者であった者が、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らすことがないよう、必要な措置を講じな</p>	<p><b>5</b> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、非常災害時において、高齢者、障害者、乳幼児等特に配慮を要する者の受入れに努めるものとする。</u></p> <p>(衛生管理等)</p> <p><b>第125条</b> 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講ずるとともに、医薬品及び医療機器の管理を適正に行わなければならない。</p> <p>2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、当該事業所において感染症が発生し、又はまん延しないように必要な措置を講ずるよう努めなければならない。</p> <p>(掲示) ☆準用</p> <p><b>第31条</b> 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>の見やすい場所に、<b>第124条</b>に規定する重要事項に関する規程の概要、<u>介護予防通所リハビリテーション従業者</u>の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を掲示しなければならない。</p> <p>(秘密保持等) ☆準用</p> <p><b>第32条</b> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>の従業者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らしてはならない。</p> <p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、当該<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>の従業者であった者が、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らすことがないよう、必要な措置を講じな</p>
---	--

ればならない。

- 3 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービス担当者会議等において、利用者の個人情報を用いる場合は利用者の同意を、利用者の家族の個人情報を用いる場合は当該家族の同意を、あらかじめ文書により得ておかなければならない。

(介護予防支援事業者に対する利益供与の禁止) ☆準用

第三十三条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、介護予防支援事業者又はその従業者に対し、利用者に対して特定の事業者によるサービスを利用させることの対償として、金品その他の財産上の利益を供与してはならない。

(苦情処理) ☆準用

第三十四条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、提供した指定介護予防通所リハビリテーションに係る利用者及びその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する等の必要な措置を講じなければならない。

- 2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、前項の苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録しなければならない。

- 3 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、提供した指定介護予防通所リハビリテーションに関し、法第二十三条の規定により市町村が行う文書その他の物件の提出若しくは提示の求め又は当該市町村の職員からの質問若しくは照会に応じ、及び利用者からの苦情に関して市町村が行う調査に協力するとともに、市町村から指導又は助言を受けた場合においては、当該指導又は助言に従って必要

ればならない。

- 3 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービス担当者会議等において、利用者の個人情報を用いる場合は利用者の同意を、利用者の家族の個人情報を用いる場合は当該家族の同意を、あらかじめ文書により得ておかなければならない。

(介護予防支援事業者に対する利益供与の禁止) ☆準用

第34条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、介護予防支援事業者又はその従業者に対し、利用者に対して特定の事業者によるサービスを利用させることの対償として、金品その他の財産上の利益を供与してはならない。

(苦情処理) ☆準用

第35条 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、提供した指定介護予防通所リハビリテーションに係る利用者又はその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する等必要な措置を講じなければならない。

- 2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、前項の苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録しなければならない。

- 3 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、提供した指定介護予防通所リハビリテーションに関し、法第23条の規定により市町村が行う文書その他の物件の提出若しくは提示の求め又は当該市町村の職員からの質問若しくは照会に応じ、及び利用者からの苦情に関して市町村が行う調査に協力するとともに、市町村から指導又は助言を受けた場合においては、当該指導又は助言に従って必要な

<p>な改善を行わなければならない。</p> <p>4 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、市町村からの求めがあった場合には、前項の改善の内容を市町村に報告しなければならない。</p> <p>5 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、提供した<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>に係る利用者からの苦情に関して国民健康保険団体連合会（国民健康保険法（昭和三十三年法律第百九十二号）第四十五条第五項に規定する国民健康保険団体連合会をいう。以下同じ。）が行う法第百七十六条第一項第三号の調査に協力するとともに、国民健康保険団体連合会から同号の指導又は助言を受けた場合においては、当該指導又は助言に従って必要な改善を行わなければならない。</p> <p>6 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、国民健康保険団体連合会からの求めがあった場合には、前項の改善の内容を国民健康保険団体連合会に報告しなければならない。</p> <p>（地域との連携） ☆準用</p> <p><u>第三十四条の二</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、その事業の運営に当たっては、提供した<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>に関する利用者からの苦情に関して市町村等が派遣する者が相談及び援助を行う事業その他の市町村が実施する事業に協力するよう努めなければならない。</p> <p>（事故発生時の対応） ☆準用</p> <p><u>第三十五条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、利用者に対する<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の提供により事故が発生した場合は、市町村、</p>	<p>改善を行わなければならない。</p> <p>4 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、市町村からの求めがあった場合には、前項の改善の内容を市町村に報告しなければならない。</p> <p>5 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、提供した<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>に係る利用者からの苦情に関して国民健康保険団体連合会（国民健康保険法（昭和33年法律第192号）第45条第5項に規定する国民健康保険団体連合会をいう。以下同じ。）が行う法第176条第1項第3号の調査に協力するとともに、国民健康保険団体連合会から同号の指導又は助言を受けた場合においては、当該指導又は助言に従って必要な改善を行わなければならない。</p> <p>6 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、国民健康保険団体連合会からの求めがあった場合には、前項の改善の内容を国民健康保険団体連合会に報告しなければならない。</p> <p>（地域との連携） ☆準用</p> <p><u>第36条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、その事業の運営に当たっては、提供した<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>に関する利用者からの苦情に関して市町村等が派遣する者が相談及び援助を行う事業その他の市町村が実施する事業に協力するよう努めなければならない。</p> <p>（事故発生時の対応） ☆準用</p> <p><u>第37条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、利用者に対する<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の提供により事故が発生した場合は、市町村、当</p>
---	---

<p>当該利用者の家族、当該利用者に係る介護予防支援事業者等に連絡を行うとともに、必要な措置を講じなければならない。</p> <p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、前項の事故の状況及び事故に際して<u>採った</u>処置について記録しなければならない。</p> <p>3 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、利用者に対する<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の提供により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行わなければならない。</p> <p>(会計の区分) ☆準用</p> <p><u>第三十六条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>ごとに経理を区分するとともに、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の事業の会計とその他の事業の会計を区分しなければならない。</p> <p>(記録の整備)</p> <p><u>第二百二十二条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。</p> <p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、利用者に対する指定介護予防通所リハビリテーションの提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、その完結の日から<u>二年間</u>保存しなければならない。</p> <p>一 介護予防通所リハビリテーション計画</p> <p><u>三</u> 次条において準用する第十九条第二項に規定する提供した具体的なサービス</p>	<p>当該利用者の家族、当該利用者に係る介護予防支援事業者等に連絡を行うとともに、必要な措置を講じなければならない。</p> <p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、前項の事故の状況及び事故に際して<u>とった</u>処置について記録しなければならない。</p> <p>3 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、利用者に対する<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の提供により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行わなければならない。</p> <p>(会計の区分) ☆準用</p> <p><u>第38条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、<u>指定介護予防通所リハビリテーション事業所</u>ごとに経理を区分するとともに、<u>指定介護予防通所リハビリテーション</u>の事業の会計とその他の事業の会計を区分しなければならない。</p> <p>(記録の整備)</p> <p><u>第126条</u> <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。</p> <p>2 <u>指定介護予防通所リハビリテーション事業者</u>は、利用者に対する指定介護予防通所リハビリテーションの提供に関する次に掲げる記録を整備し、その完結の日から<u>5年間</u>保存しなければならない。</p> <p>(1) 介護予防通所リハビリテーション計画</p> <p><u>(2) 第122条第2項に規定する身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びにやむを得ない理由の記録</u></p> <p><u>(3)</u> 次条において準用する第19条第2項に規定する提供した具体的なサービス</p>
---	--

<p>の内容等の記録</p> <p><u>三</u> 次条において準用する<u>第二十三条</u>に規定する市町村への通知に係る記録</p> <p><u>四</u> 次条において準用する<u>第三十四条</u>第二項に規定する苦情の内容等の記録</p> <p><u>五</u> 次条において準用する<u>第三十五条</u>第二項に規定する事故の状況及び事故に際して<u>採った</u>処置についての記録</p> <p>(準用)</p> <p><u>第二百二十三</u>条 第八条から第十三条まで、第十五条から第十七条まで、第十九条、第二十一条、<u>第二十三条</u>、<u>第二十四条</u>、<u>第三十条</u>、<u>第三十一条</u>、<u>第三十三条</u>から<u>第三十六条</u>まで、<u>第六十七条</u>、<u>第百条</u>及び<u>第百二</u>条から<u>第百四</u>条までの規定は、指定介護予防通所リハビリテーションの事業について準用する。この場合において、これらの規定中「訪問介護員等」とあるのは「介護予防通所リハビリテーション従業者」と、第八条及び<u>第三十条</u>中「<u>第二十六条</u>」とあるのは「<u>第百二十</u>条」と、第十三条中「心身の状況」とあるのは「心身の状況、病歴」と、<u>第百二</u>条第三項中「介護予防通所介護従業者」とあるのは「介護予防通所リハビリテーション従業者」と読み替えるものとする。</p> <p>第五節 介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準</p> <p>(指定介護予防通所リハビリテーションの基本取扱方針)</p> <p><u>第二百二十四</u>条 指定介護予防通所リハビリテーションは、利用者の介護予防に資す</p>	<p>の内容等の記録</p> <p><u>(4)</u> 次条において準用する<u>第24条</u>に規定する市町村への通知に係る記録</p> <p><u>(5)</u> 次条において準用する<u>第35条</u>第2項に規定する苦情の内容等の記録</p> <p><u>(6)</u> 次条において準用する<u>第37条</u>第2項に規定する事故の状況及び事故に際して<u>とった</u>処置についての記録</p> <p><u>(7)</u> 次条において準用する第105条第1項に規定する勤務の体制等の記録</p> <p><u>(8)</u> 法第52条に規定する予防給付及び次条において準用する第102条第1項から第3項までに規定する利用料等に関する請求及び受領等の記録</p> <p>(準用)</p> <p><u>第127</u>条 第8条から第13条まで、第15条から第17条まで、第19条、第21条、<u>第24条</u>、<u>第25条</u>、<u>第31条</u>、<u>第32条</u>、<u>第34条</u>から<u>第38条</u>まで、<u>第69条</u>、<u>第102条</u>及び<u>第105条</u>から<u>第107条</u>までの規定は、指定介護予防通所リハビリテーションの事業について準用する。この場合において、これらの規定中「訪問介護員等」とあるのは「介護予防通所リハビリテーション従業者」と、第8条<u>第1項</u>及び<u>第31条</u>中「<u>第27条</u>」とあるのは「<u>第124条</u>」と、第13条中「心身の状況」とあるのは「心身の状況、病歴」と、<u>第105条</u>第3項及び<u>第4項</u>中「介護予防通所介護従業者」とあるのは「介護予防通所リハビリテーション従業者」と読み替えるものとする。</p> <p>第5節 介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準</p> <p>(指定介護予防通所リハビリテーションの基本取扱方針)</p> <p><u>第128</u>条 指定介護予防通所リハビリテーションは、利用者の介護予防に資する</p>
--	---



<p>るよう、その目標を設定し、計画的に行われなければならない。</p> <p>2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、<u>自ら</u>その提供する指定介護予防通所リハビリテーションの質の評価を行うとともに、主治の医師又は歯科医師とも連携を図りつつ、常にその改善を図らなければならない。</p> <p>3 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たり、単に利用者の運動器の機能の向上、栄養状態の改善、口腔機能の向上等の特定の心身機能に着目した改善等を目的とするものではなく、当該心身機能の改善等を通じて、利用者ができる限り要介護状態とならないで自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的とするものであることを常に意識してサービスの提供に当たらなければならない。</p> <p>4 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、利用者がその有する能力を最大限活用することができるよう<u>な方法によるサービス</u>の提供に努めなければならない。</p> <p>5 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たり、利用者とのコミュニケーションを十分に図ることその他の様々な方法により、利用者が主体的に事業に参加するよう適切な働きかけに努めなければならない。</p>	<p>よう、その目標を設定し、計画的に行われなければならない。</p> <p>2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、<u>多様な評価の手法を用いて</u>その提供する指定介護予防通所リハビリテーションの質の評価を行うとともに、主治の医師又は歯科医師とも連携を図りつつ、常にその改善を図らなければならない。</p> <p>3 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たり、単に利用者の運動器の機能の向上、栄養状態の改善、口腔機能の向上等の特定の心身機能に着目した改善等を目的とするものではなく、当該心身機能の改善等を通じて、利用者ができる限り要介護状態とならないで自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的とするものであることを常に意識してサービスの提供に当たらなければならない。</p> <p>4 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、利用者がその有する能力を最大限活用することができるよう、<u>利用者に対し適切な理学療法、作業療法その他必要なリハビリテーション</u>の提供に努めなければならない。</p> <p>5 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たり、利用者とのコミュニケーションを十分に図ることその他の様々な方法により、利用者が主体的に事業に参加するよう適切な働きかけに努めなければならない。</p> <p><u>6 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、必要に応じ、利用者の送迎が可能となるよう、体制の整備に努めるものとする。</u></p> <p><u>7 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、必要に応じ、利用者が成年後</u></p>
---	---

<p>(指定介護予防通所リハビリテーションの具体的取扱方針)</p> <p><u>第百二十五条</u> 指定介護予防通所リハビリテーションの方針は、<u>第百十六条</u>に規定する基本方針及び前条に規定する基本取扱方針に基づき、次に掲げるところによるものとする。</p> <p>一 指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たっては、主治の医師又は歯科医師からの情報伝達<u>や</u>サービス担当者会議を通じる等の適切な方法により、利用者の病状、心身の状況、その置かれている環境等利用者の日常生活全般の状況の的確な把握を行う<u>ものとする</u>。</p> <p>二 医師及び理学療法士、作業療法士その他専ら指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる介護予防通所リハビリテーション従業者（以下この節において「医師等の従業者」という。）は、診療又は運動機能検査、作業能力検査等を基に、共同して、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、リハビリテーションの目標、当該目標を達成するための具体的なサービスの内容、サービスの提供を行う期間等を記載した介護予防通所リハビリテーション計画を作成しなければならない。</p> <p>三 医師等の従業者は、介護予防通所リハビリテーション計画の作成に当たっては、既に介護予防サービス計画が作成されている場合は、当該計画の内容に沿って作成しなければならない。</p> <p>四 医師等の従業者は、介護予防通所リハビリテーション計画の作成に当たっては、その内容について利用者又はその家族に対して説明し、利用者の同意を得</p>	<p><u>見制度を活用することができるように支援しなければならない。</u></p> <p>(指定介護予防通所リハビリテーションの具体的取扱方針)</p> <p><u>第129条</u> 指定介護予防通所リハビリテーションの方針は、<u>第119条</u>に規定する基本方針及び前条に規定する基本取扱方針に基づき、次に掲げるところによるものとする。</p> <p>(1) 指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たっては、主治の医師又は歯科医師からの情報伝達<u>、</u>サービス担当者会議を通じる等の適切な方法により、利用者の病状、心身の状況、その置かれている環境等利用者の日常生活全般の状況の的確な把握を行う<u>こと</u>。</p> <p>(2) 医師及び理学療法士、作業療法士その他専ら指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たる介護予防通所リハビリテーション従業者（以下この節において「医師等の従業者」という。）は、診療又は運動機能検査、作業能力検査等を基に、共同して、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、リハビリテーションの目標、当該目標を達成するための具体的なサービスの内容、サービスの提供を行う期間等を記載した介護予防通所リハビリテーション計画を作成しなければならない<u>こと</u>。</p> <p>(3) 医師等の従業者は、介護予防通所リハビリテーション計画の作成に当たっては、既に介護予防サービス計画が作成されている場合<u>において</u>は、当該計画の内容に沿って作成しなければならない<u>こと</u>。</p> <p>(4) 医師等の従業者は、介護予防通所リハビリテーション計画の作成に当たっては、その内容について利用者又はその家族に対して説明し、利用者の同意を得</p>
--	---

<p>なければならない。</p> <p>五 医師等の従業者は、介護予防通所リハビリテーション計画を作成した際には、当該介護予防通所リハビリテーション計画を利用者に交付しなければならない。</p> <p>六 指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たっては、介護予防通所リハビリテーション計画に基づき、利用者が日常生活を営むのに必要な支援を行う<u>ものとする。</u></p> <p>七 指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たっては、懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者又はその家族に対し、リハビリテーションの観点から療養上必要とされる事項について、理解しやすいように指導又は説明を行う<u>ものとする。</u></p> <p>八 指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たっては、介護技術の進歩に対応し、適切な介護技術をもってサービスの提供を行う<u>ものとする。</u></p> <p>九 医師等の従業者は、介護予防通所リハビリテーション計画に基づくサービスの提供の開始時から、少なくとも一月に一回は、当該介護予防通所リハビリテーション計画に係る利用者の状態、当該利用者に対するサービスの提供状況等について、当該サービスの提供に係る介護予防サービス計画を作成した指定介護予防支援事業者に報告するとともに、当該介護予防通所リハビリテーション計画に記載したサービスの提供を行う期間が終了するまでに、少なくとも一回は、当該介護予防通所リハビリテーション計画の実施状況の把握（以下この<u>条</u>において「モニタリング」という。）を行う<u>ものとする。</u></p>	<p>なければならない<u>こと。</u></p> <p>(5) 医師等の従業者は、介護予防通所リハビリテーション計画を作成した際には、当該介護予防通所リハビリテーション計画を利用者に交付しなければならない<u>こと。</u></p> <p>(6) 指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たっては、介護予防通所リハビリテーション計画に基づき、利用者が日常生活を営むのに必要な支援を行う<u>こと。</u></p> <p>(7) 指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たっては、懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者又はその家族に対し、リハビリテーションの観点から療養上必要とされる事項について、理解しやすいように指導又は説明を行う<u>こと。</u></p> <p>(8) 指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たっては、介護技術の進歩に対応し、適切な介護技術をもってサービスの提供を行う<u>こと。</u></p> <p>(9) 医師等の従業者は、介護予防通所リハビリテーション計画に基づくサービスの提供の開始時から、少なくとも1月に1回は、当該介護予防通所リハビリテーション計画に係る利用者の状態、当該利用者に対するサービスの提供状況等について、当該サービスの提供に係る介護予防サービス計画を作成した指定介護予防支援事業者に報告するとともに、当該介護予防通所リハビリテーション計画に記載したサービスの提供を行う期間が終了するまでに、少なくとも一回は、当該介護予防通所リハビリテーション計画の実施状況の把握（以下この<u>項</u>において「モニタリング」という。）を行う<u>こと。</u></p>
--	--

<p>十 医師等の従業者は、モニタリングの結果を記録し、当該記録を当該サービスの提供に係る介護予防サービス計画を作成した指定介護予防支援事業者に報告しなければならない。</p> <p>十一 医師等の従業者は、モニタリングの結果を踏まえ、必要に応じて介護予防通所リハビリテーション計画の変更を行う<u>ものとする</u>。</p> <p>十二 第一号から第十号までの規定は、前号に規定する介護予防通所リハビリテーション計画の変更について準用する。</p> <p>(指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たっての留意点)</p> <p><b>第二百二十六条</b> 指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たっては、介護予防の効果を最大限高める観点から、次に掲げる事項に留意しながら行わなければならない。</p> <p>一 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービスの提供に当たり、介護予防支援におけるアセスメントにおいて把握された課題、指定介護予防通所リハビリテーションの提供による当該課題に係る改善状況等を踏まえつつ、効率的かつ柔軟なサービスの提供に努めること。</p> <p>二 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、運動器機能向上サービス、栄養改善サービス又は口腔機能向上サービスを提供するに当たっては、国内外の文献等において有効性が確認されている等の適切なものとする。</p> <p>三 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービスの提供に当たり、利用者が虚弱な高齢者であることに十分に配慮し、利用者に危険が伴うような強い負荷を伴うサービスの提供は行わないとともに、次条に規定する安全管理</p>	<p>(10) 医師等の従業者は、モニタリングの結果を記録し、当該記録を当該サービスの提供に係る介護予防サービス計画を作成した指定介護予防支援事業者に報告しなければならない<u>こと</u>。</p> <p>(11) 医師等の従業者は、モニタリングの結果を踏まえ、必要に応じて介護予防通所リハビリテーション計画の変更を行う<u>こと</u>。</p> <p>(12) 第1号から第10号までの規定は、前号に規定する介護予防通所リハビリテーション計画の変更について準用する。</p> <p>(指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たっての留意点)</p> <p><b>第130条</b> 指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たっては、介護予防の効果を最大限高める観点から、次に掲げる事項に留意しながら行わなければならない。</p> <p>(1) 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービスの提供に当たり、介護予防支援におけるアセスメントにおいて把握された課題、指定介護予防通所リハビリテーションの提供による当該課題に係る改善状況等を踏まえつつ、効率的かつ柔軟なサービスの提供に努めること。</p> <p>(2) 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、運動器機能向上サービス、栄養改善サービス又は口腔機能向上サービスを提供するに当たっては、国内外の文献等において有効性が確認されている等の適切なものとする。</p> <p>(3) 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービスの提供に当たり、利用者が虚弱な高齢者であることに十分に配慮し、利用者に危険が伴うような強い負荷を伴うサービスの提供は行わないとともに、次条に規定する安全管理</p>
--	--

<p>体制等の確保を図ること等を通じて、利用者の安全面に最大限配慮すること。</p> <p>(安全管理体制等の確保)</p> <p><u>第二百二十七条</u> 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービスの提供を行っているときに利用者に病状の急変等が生じた場合に備え、緊急時マニュアル等を作成し、事業所内の従業者に周知徹底を図るとともに、速やかに主治の医師への連絡を行えるよう、緊急時の連絡方法をあらかじめ定めておかなければならない。</p> <p>2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービスの提供に当たり、転倒等を防止するための環境整備に努めなければならない。</p> <p>3 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービスの提供に当たり、事前に脈拍や<u>血</u>圧等を測定する等利用者の当日の体調を確認するとともに、無理のない適度なサービスの内容とするよう努めなければならない。</p> <p>4 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービスの提供を行っているときにおいても、利用者の体調の変化に常に気を配り、病状の急変等が生じた場合その他必要な場合には、速やかに主治の医師への連絡を行う等の必要な措置を講じなければならない。</p> <p>附 則</p> <p>(施行期日)</p> <p>第一条 <u>この省令は、平成十八年四月一日から施行する。</u></p> <p>(経過措置)</p>	<p>体制等の確保を図ること等を通じて、利用者の安全面に最大限配慮すること。</p> <p>(安全管理体制等の確保)</p> <p><u>第131条</u> 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービスの提供を行っているときに利用者に病状の急変等が生じた場合に備え、緊急時マニュアル等を作成し、事業所内の従業者に周知徹底を図るとともに、速やかに主治の医師への連絡を行えるよう、緊急時の連絡方法をあらかじめ定めておかなければならない。</p> <p>2 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービスの提供に当たり、転倒等を防止するための環境整備に努めなければならない。</p> <p>3 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービスの提供に当たり、事前に脈拍、<u>血</u>圧等を測定する等利用者の当日の体調を確認するとともに、無理のない適度なサービスの内容とするよう努めなければならない。</p> <p>4 指定介護予防通所リハビリテーション事業者は、サービスの提供を行っているときにおいても、利用者の体調の変化に常に気を配り、病状の急変等が生じた場合その他必要な場合には、速やかに主治の医師への連絡を行う等の必要な措置を講じなければならない。</p> <p>附 則</p> <p>(施行期日)</p> <p>第1条 <u>この条例は、平成25年4月1日（以下「施行日」という。）から施行する。</u></p> <p>(経過措置)</p>
---	--

<p><u>(略)</u></p>	<p><u>第2条～第17条 (略)</u></p> <p><u>第18条 施行日において現に法第53条第1項本文の規定に基づく指定を受けている介護予防短期入所生活介護事業者（施行日後に増築され、又は全面的に改築された部分を除く。）については、第136条第5項第4号又は第157条第5項第1号エの規定にかかわらず、基準省令第132条第6項第4号又は第153条第6項第1号ニの規定によることができる。</u></p> <p><u>2 施行日において現に法第53条第1項本文の規定に基づく指定を受けている介護予防通所介護事業者又は介護予防通所リハビリテーション事業者（施行日後に増築され、又は全面的に改築された部分を除く。）については、第101条第2項第3号又は第121条第2項第2号の規定は、当分の間適用しない。</u></p> <p><u>第19条～第20条 (略)</u></p>
-------------------	---